

平成29年度(2017)

履 修 の 手 引

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY

人 間 教 育 学 部

平成29年度(2017)

履 修 の 手 引

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY

人 間 教 育 学 部

建学の精神

高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有する有能な人材を教育・養成し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献する

教育理念

現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を養成する

教育目標

人間教育学部

「社会の中で一人の人間」として生き抜く力となる豊かな「人間力」を基盤とする、柔軟な「教育力」と高度な「実践力」を備えた「教育者」（広く社会の教育活動にかかわる人材）の養成を目的とする

奈良学園大学 教育の三つのポリシー

アドミッションポリシー (admission policy 入学者受入方針)

カリキュラムポリシー (curriculum policy 教育課程の編成・実施の方針)

ディプロマポリシー (diploma policy 卒業認定・学位授与に関する方針)

1. 大学のポリシー

(1) アドミッションポリシー (求める学生像)

- ①大学教育を受けるに相応しい基礎能力や体験を備え、本学での教育を通じて社会人としての一層の成長が期待できる学生を受け入れる。
- ②実践を重視した演習課題に、積極的にとりくむ意欲のある学生を受け入れる。
- ③地域社会との交流に関心を持ち、将来、社会全体の発達・発展に貢献する事に使命感を持つ学生を受け入れる。

(2) ディプロマポリシー

本学は、所定の単位を修得し、以下のような「実践力」を身につけた学生に対して、その卒業を認定する。

- ①高度な学識と実務能力に基づく実践力
- ②時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をもつ実践力
- ③社会に貢献することのできる実践力

2. 人間教育学部のポリシー

(1) アドミッションポリシー (入学者の受け入れ方針)

- ①教職への意欲や関心があり、教育を通して社会の未来に貢献する意欲のある人
- ②教育の専門家としての確かな力量を獲得するため積極的に学び続ける意欲のある人
- ③豊かな人間性や社会性、常識と教養をはじめ協調性や創造性を深める意欲がある人

(2) カリキュラムポリシー (教育内容・方法の方針)

- ①広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟した人を育てる教育
- ②教育に対する使命感と情熱をもち、子どもと教育的な関係を築く力をつける教育
- ③教育の専門家として各教科の内容及び指導法を実践的に深める教育
- ④個々の子どもを理解し一人一人を生かすとともに集団を指導する力を身につける教育
- ⑤自己教育力をもち、セルフマネジメント能力と生涯学習能力を身につける教育

- ⑥学校内外の人々と連携しチームとして活動できる力を身につける教育
 - ⑦日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につける教育
- (3) ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
- ①広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟している
 - ②教職に対する使命感をもち、児童生徒に教育的な愛を持って接することができる
 - ③学校現場の様々な教育課題に適切に対応し、チームとして行動することができる
 - ④子どもの発達に応じて授業を構想し指導を工夫する教育の専門家である
 - ⑤自己の学習を振り返り、理論と実践を結びつけた研修を継続的にできる
 - ⑥保護者や地域の人等、学校外の人等と広く連携する力を身につけている
 - ⑦日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につけている

は じ め に

この「履修の手引」は、学生諸君が4年間にわたって本学で学修し、授業を履修して単位を修得するうえで必要な事項をまとめた手引きです。

奈良学園大学では、学修に必要な教育科目を、数多く開設しています。学生諸君は、自分の目標や興味・関心に基づき、本学の定める一定の規則やルール（履修規程）に従って、履修する授業科目を選択し、時間割を編成してください。主体的に立案した履修計画に従って、授業を欠くことなく履修を完遂することが重要です。自己責任において計画を立て学修することは、大学教育の大きな柱の一つです。

学修においては一定の成果を修め、卒業認定に必要な単位を修得していかなければなりません。この「履修の手引」を熟読して、効果的な履修計画を立て、有意義な学習ができるよう期待しています。

平成 29 年度 (2017) 学年暦及び行事予定表【人間教育学部・ビジネス学部・情報学部】
前 期

	日	月	火	水	木	金	土	全 学 年 行 事 予 定
4 月							1	<1年次生> 3日 (月) 入学式 4日 (火) 履修登録 5日 (水) ～6日 (木) 新入生学外宿泊研修 (1泊2日) 7日 (金) 健康診断 (午前) 10日 (月) 前期授業開始、教科書販売 (～4/22まで) <2年次生以上> 7日 (金) 〈健康診断〉 人間教育学部 2・3年次生 (午後) 人間教育学部 4年次生 (午前) ビジネス学部・情報学部 (午前) 前期授業開始、教科書販売 (～4/22まで)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
5 月		1	2	3	4	5	6	2日 (火) 全日休講
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
6 月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
7 月							1	29日 (土) 前期授業終了 31日 (月) ～8月5日 (土) 前期試験
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
8 月			1	2	3	4	5	7日 (月) ～8日 (火) 前期追試験手続き 6日 (日) ～9月21日 (木) 夏期休暇 10日 (木) 前期補習対象者リスト発表 (人間教育学部) 16日 (水) ～22日 (火) 前期補習期間 (人間教育学部) 23日 (水) ～24日 (木) 前期再試験手続き 29日 (火) ～9月2日 (土) 前期追・再試験
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
9 月						1	2	12日 (火) ～15日 (金) 前期面談及び成績配付期間 (全学部・全学年対象) 12日 (火) 履修登録 (4年次以上) 13日 (水) 履修登録 (3年次) 14日 (木) 履修登録 (2年次) 15日 (金) 履修登録 (1年次) 前期卒業証書・学位記授与式
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	

平成 29 年度（2017） 学年暦及び行事予定表【人間教育学部・ビジネス学部・情報学部】
後 期

	日	月	火	水	木	金	土	全 学 年 行 事 予 定	
9 月								22日（金） 後期授業開始	
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
10 月	1	2	3	4	5	6	7	1日（月） 22日（日） 29日（日）	授業実施日 学園祭（三室祭） 学園祭（登美ヶ丘祭）
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
11 月				1	2	3	4	1日（水）	創立記念日
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30				
12 月						1	2	23日（土） 24日（日）～1月9日（火）	年内授業最終日、授業実施日 冬期休暇
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
1 月		1	2	3	4	5	6	10日（水） 12日（金） 13日（土）～14日（日） 27日（土） 29日（月）～2月3日（土）	年明け授業開始 卒業論文提出期限（人間教育学部） 大学入試センター試験準備（全日休講） （三郷キャンパス午後入構禁止） 大学入試センター試験 （三郷キャンパス入構禁止） 後期授業終了 後期試験
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					
2 月					1	2	3	5日（月）～6日（火） 4日（日）～3月31日（土） 9日（金） 13日（火）～19日（月） 20日（火）～21日（水） 27日（火）～3月3日（土）	後期追試験手続き 春期休暇 後期補習対象者リスト発表（人間教育学部） 後期補習期間（人間教育学部） 成績発表（卒業年次生）及び再試験手続き 後期追・再試験
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28					
3 月					1	2	3	6日（火） 9日（金） 25日（日） 26日（月）～28日（水） 26日（月） 27日（火） 28日（水）	後期追試験・再試験成績発表（卒業年次生） 卒業判定会議 卒業式・学位記授与式 後期面談及び成績配付期間（全学生対象） 履修登録（新4年次生） 履修登録（新3年次生） 履修登録（新2年次生以上）
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		

目 次

1. 教育課程（カリキュラム）

- (1) 教育課程（カリキュラム）について 13
- (2) 単位制について 13

2. 履修登録

- (1) 履修登録の流れについて 15
- (2) 履修制限について 16
- (3) 履修登録の手順について 17
- (4) シラバスの閲覧・検索について 19

3. 授 業

- (1) 授業時間について 21
- (2) 休講について 21
- (3) 臨時休講について 21
- (4) 補講について 22
- (5) 出欠席について 22
- (6) オフィス・アワーについて 23

4. 試 験

- (1) 試験受験の心得について 24
- (2) 定期試験について 24
- (3) 論文（レポート）試験・提出について 24
- (4) 追試験について 25
- (5) 再試験について 26
- (6) 不正行為（カンニング）について 26

5. 成 績

- (1) 成績評価について 27
- (2) 成績発表について 27
- (3) 成績通知書と修得単位について 27

6. 卒業の要件

- (1) 卒業の要件について 28
- (2) 卒業所要単位一覧について 28

7. GPA制度について

(1) GPA制度導入の趣旨	28
(2) GPAの算出式	29
(3) GPAの算定基準	29
(4) GPAの算出例	29
(5) 履修登録科目の変更	29
(6) 履修変更ができない科目	30
(7) GPA値の確認方法	30

人間教育学部の講義を受けるにあたって

1. 規程関係

◆人間教育学部人間教育学科履修規程	36
◆人間教育学部人間教育学科履修規程教育課程表	40
◆人間教育学部人間教育学科保育士養成課程履修細則	49

2. 教職課程

(1) 教職課程の概要	54
(2) 免許状の種類と免許教科	54
(3) 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数	54
(4) 教職課程登録	55
(5) 教職課程の科目	55
(6) 教職課程科目の履修について	60
(7) 教育実習	60
(8) 介護等体験について	61

3. 保育士養成課程

(1) 保育士課程の概要	64
(2) 保育士資格の取得要件	64
(3) 保育士課程の受講要件	64
(4) 保育士課程受講選考方法	64
(5) 保育実習について	64

4. 授業科目表

◆人間教育学部人間教育学科授業科目表	68
--------------------	----

履修の手引

この項には、学生諸君が奈良学園大学で学修していくうえで、必ず知っておかなければならない基本的な事項についての説明が記載されています。

授業が始まるまでに、これらの事柄をよく理解しておいてください。

履修の手引

1. 教育課程（カリキュラム）

（1）教育課程（カリキュラム）について

大学において開設される授業科目は、学部・学科の専門に関する科目と、幅広く深い教養を培う科目に分類されます。これらの授業科目を必修科目・選択必修科目・選択科目に分けたり、各年次に配当したり、一週間あたりの時間数を決めるなどして編成したものを**教育課程（カリキュラム）**とといいます。

（2）単位制について

本学で開講している各授業科目には、それぞれに「単位数」が定められています。学生諸君は、単位数の定められた授業科目を履修し、その成績が合格点（60点以上）であれば、その所定単位は認定され、単位を修得したことになります。修得した単位数の履修区分ごとの合計が卒業に必要な単位数を満たし、かつ、在学期間が4年以上となった時点で卒業することができます。

単位の計算方法

単位数については、文部科学省の定める大学設置基準によって、45時間の学修を必要とする内容を1単位とするとされています。ただし、ここで言う学修とは、授業時間に加えて、予習・復習及び研究等のための自学自習の時間を含みます。自学自習の時間を保証するために、大学では高等学校までと違って授業の入っていない時間帯があるのです。

以下、学修の典型的なパターンのいくつかを示します。なお、1回分の授業を1コマと数え、1コマ90分を2時間として計算します。

<週1コマ・半期1単位の科目>

●学修時間：45時間 × 1単位 = 45時間

うち、授業時間：(前期15週 × 2時間)または(後期15週 × 2時間) = 半年間30時間

自学自習の時間：半年間15時間

授業 30 時間	自学自習 15 時間	半年間 45 時間
----------	------------	-----------

1週間に1コマ2時間（90分）を15週

<週1コマ・半期2単位の科目>

●学修時間：45時間 × 2単位 = 90時間

うち、授業時間：(前期15週 × 2時間)または(後期15週 × 2時間) = 半年間30時間

自学自習の時間：半年間60時間

授業 30 時間	自学自習 60 時間	半年間 90 時間
----------	------------	-----------

1週間に1コマ2時間（90分）を15週

<週1コマ・通年4単位の科目>

●学修時間：45時間 × 4単位 = 180時間

うち、授業時間：(前期15週 × 2時間) + (後期15週 × 2時間) = 1年間60時間

自学自習の時間：1年間120時間

	授業 60 時間	自学自習 120 時間	1 年間 180 時間
--	----------	-------------	-------------

1 週間に 1 コマ 2 時間 (90 分) を 30 週

<週2コマ・半期4単位の科目>

●学修時間：45時間 × 4単位 = 180時間

うち、授業時間：(前期15週 × 4時間)または(後期15週 × 4時間) = 半年間60時間

自学自習の時間：半年間120時間

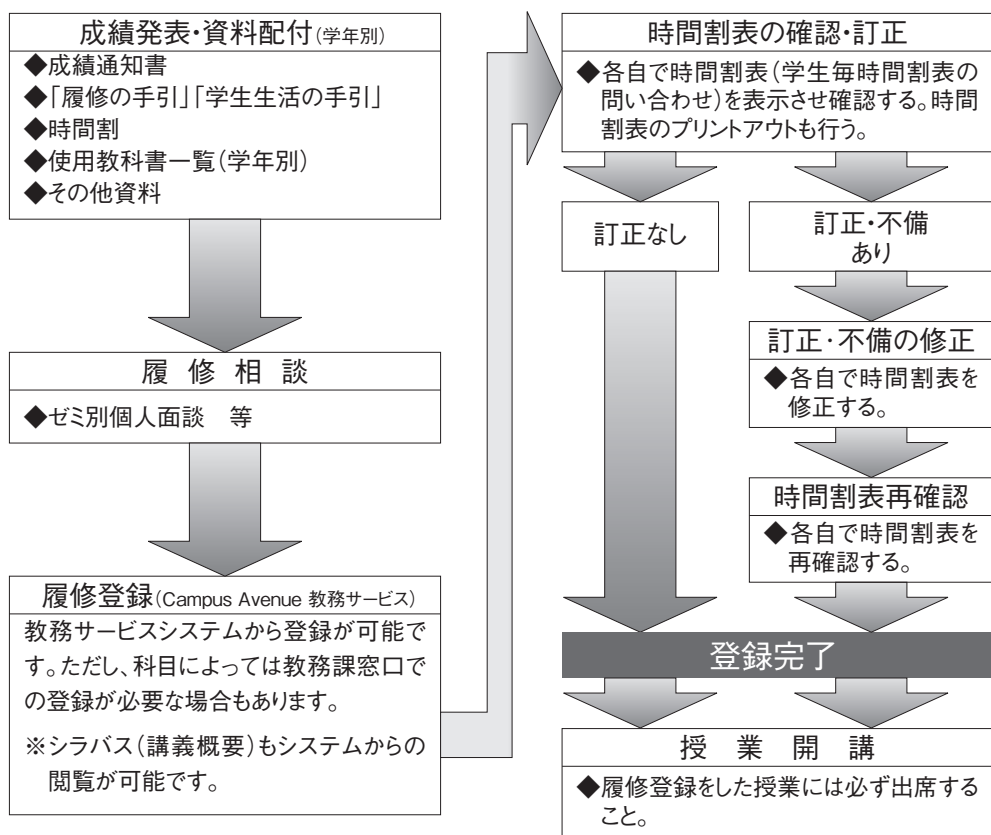
	授業 60 時間	自学自習 120 時間	半年間 180 時間
--	----------	-------------	------------

1 週間に 2 コマ 4 時間 (180 分) を 15 週

2. 履修登録

大学では、授業を受講するにあたって、まず**履修登録**をしなければなりません。履修登録をしていない科目を受講しても単位は認定されません。履修登録にあたっては、各自の学習計画に基づいて、十分に検討してください。

(1) 履修登録の流れについて



- ◎前期または後期履修登録後の履修科目変更期間：第1週目の授業終了時まで
- ◎前期または後期履修登録後の履修科目取消期間：第6週目の授業終了時まで

履修計画の注意点

1. 「履修の手引」をよく読み、履修のルール（履修方法や履修規程）をよく知ること。
2. 「シラバス（講義概要）」をよく読み、授業の内容や概要をつかむこと。
3. 将来の目標に合わせて、必要とする授業科目を選択すること。
4. 各学期末に行われるアドバイザーまたは担任との面談には必ず出席すること。
5. 各自の成績通知書を確認し、結果をふまえて履修計画を立てること。
6. 必修科目及び登録必修科目は必ず登録すること。
前年度の必修科目が修得できなかった場合は再履修すること。
7. 選択科目についてもそれぞれの履修区分や単位修得条件について注意してください。
必修科目ではないからといって履修放棄したり、単位を落としたりしてはいけません。
8. 卒業必要単位をギリギリ履修するのではなく、余裕ある単位修得計画が必要です。

(2) 履修制限について

履修できる授業科目数は、その授業科目の合計単位数で制限されており、学部によって、学期（セメスター）又は学年ごとに履修登録可能な授業単位数の上限が決められています。この履修制限は、予習・復習等の自習時間を十分にとれるようにし、自ら学修を深めていってもらうためのものです。

履修制限の単位数は次表のように定められており、この単位数を超えて履修することはできません。（ただし、履修制限単位数の緩和措置が適用される場合や、単位化対象資格で認定された単位等についてはこの限りではありません。）

履修登録の際には、卒業までの履修計画と合わせて履修制限内で考えてください。

■人間教育学部 人間教育学科 履修制限単位

学 年	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学 期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	25		25		25		25	
	45		45		45		45	

(注) 各学年の後期履修制限単位数については、年間履修制限単位数 45 単位から前期履修単位数を差し引いた単位数を上限とする。

(3) 履修登録の手順について

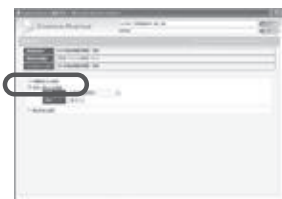
1. 履修登録システムの起動

- 1 ブラウザを起動し、「Campus Avenue 教務サービス」の Web ページを開く。
<https://soul.naragakuen-u.jp/car/student/student.jsp>
- 2 ログイン ID とパスワードを入力し、
[ログイン] ボタンをクリックする。
- 3 右段のバナー「履修登録」をクリックする。



2. 履修科目を選択する

- 1 画面左側にあるリンク「時間割からの登録」をクリックする。



- 2 履修したい科目名の左上にあるボックスをクリックし、
チェックを入れる。

※シラバスの検索については、「シラバスの閲覧・検索について (p.19 ~ 20)」を参照すること。



- 3 画面左上のリンク「選択を終了」をクリックする。

※この段階では履修登録内容を一時的保存しただけで、
履修登録は完了していません。



科目表示

履修形態

学期アイコン

授業科目名 ☐ NJC0045
国文学2 (必:2)
担当教員名 (西井 大輝) 単位数

前 = 前期科目 **後** = 後期科目 **後前半** **後後半** = クォーター科目 **通** = 通年科目

履修形態

必 = 必修科目 (必ず履修し、単位を修得しなければならない)
選 = 選択科目 (履修する／しないを選択できる)

3. 履修科目を確認する

- 1 事前に作成していた時間割表と比較し、間違いがないか確認する。



【間違いがない場合】

- 1 画面左上の「申告を登録する」ボタンをクリックする。
 ※ この操作によって履修登録の申請が完了します。



- 2 画面右上の「戻る」ボタンをクリックする。

※ この画面で「履修登録エラー」が表示された場合、同画面中央のリンク「履修修正へ」をクリックし、履修科目を修正します。リンク「エラー確認」をクリックすると、エラー箇所がわかります。



【間違いがあり、修正する場合】

- 1 画面左上の「他の講義も選択する」ボタンをクリックし、前頁「2. 履修科目を選択する」の手順 [2]・[3] に従って履修科目を選択する。



4. 履修登録作業を終了する

- 1 画面右上の「ログアウト」ボタンをクリックする。



(4) シラバスの閲覧・検索について

1. 履修登録システムの起動

- 1 ブラウザを起動し、「Campus Avenue 教務サービス」のWebページを開く。
<https://soul.naragakuen-u.jp/car/student/student.jsp>
- 2 ログインIDとパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックする。
- 3 右段のバナー「履修登録」をクリックする。



2. シラバスを閲覧する

- 1 画面左側にあるリンク「時間割からの登録」をクリックする。
- 2 履修申告（時間割）画面が表示されます。



<履修申告（時間割）画面>



- 3 科目名のリンクをクリックすると、シラバスの詳細が表示されます。

<シラバス詳細画面>



【注意】

時間割表の時間割名がリンクになっているのは、シラバスの公開期間中だけです。シラバスの公開期間が過ぎると、時間割名のリンクは解除されます。

- 4 「閉じる」ボタンをクリックすると、履修申告（時間割）画面に戻ります。

3. 授 業

(1) 授業時間について

1回の授業時間は90分です。通常、月曜日～金曜日は1～5時限で、土曜日は1～2時限で行います。特に補講等のある場合、原則として、月曜～金曜の5（授業が行われない日）、6時限目や土曜日の3、4時限目があてられます。

校時表

時 限	時 間
1	9：00～10：30
2	10：40～12：10
昼 休 み	
3	13：00～14：30
4	14：40～16：10
5	16：20～17：50
6	18：00～19：30

(2) 休講について

大学の事情（入学試験等）や担当教員のやむを得ない理由（病気、出張等）により、休講になることがあります。

休講通知は、原則として1週間前に掲示します。ただし、急な事情のときは、やむを得ず当日に掲示されることもありますので、登校時には常に掲示板を確認するようにしてください。

また、休講の掲示もなく、授業開始時刻から30分過ぎても担当教員が来室しない場合は、教務課に連絡して指示を受けてください。なお、休講通知は本学Webページ（キャンパスアベニュー）でも確認できます。

(3) 臨時休講について

下記のア～ウの場合は、臨時休講となります。学生は各自で情報を的確に収集し、それぞれの判断で下記の定めに従って行動してください。その際、大学への問い合わせはしないでください。

※通学途中、通学が危険かつ困難となった場合は、各自の判断で危険等を回避したのち、教務課に届け出てください。

ア. 交通機関ストライキの場合

下記に示すいずれかの交通機関がストライキを行った場合、次の時限が休講となります。

- ① 午前7時の時点で実施されている場合：午前の授業（1・2時限目）を休講とする。
- ② 午前10時の時点で実施されている場合：午後の授業（3・4・5・6時限目）も休講とする。

鉄道会社	対 象 に な る 路 線
近鉄	全 線
J R	関西本線〔大和路線〕 JR 難波－天王寺－奈良－加茂
	和歌山線 和歌山－高田－王寺
	桜井線 奈良－桜井－高田－王寺

イ. 気象警報が発表された場合

対象となる地域	対象となる気象警報の種類
奈良県北西部又は大阪府	特別警報・暴風警報

上記警報が発表された場合、次の時限が休講となります。ただし大雨洪水警報は対象外です。

- ① 午前 7 時の時点で警報が発表されている場合：午前の授業（1・2 時限目）を休講とする。
- ② 午前 10 時の時点で警報が発表されている場合：午後の授業（3・4・5・6 時限目）も休講とする。

ウ. 大和川の増水で交通機関が不通になった場合

本学の特殊事情として大和川が増水で J R 関西本線（天王寺～王寺間）が不通になった場合、上記のアの通り休講します。

（4）補講について

休講等によって授業時間数が規定時間数に満たない場合に、補講を行うことがあります。補講は、原則として、月曜日～金曜日の 5（授業が行われない日）、6 時限目又は土曜日に行います。補講の日程・教室・時間等は、全て掲示板で指示します。

（5）出欠席について

授業は勿論のこと、大学行事への参加は学生の本分です。そのため、次のようなやむを得ぬ理由で授業を欠席する場合は、担当課へ申し出て「公欠届」、「公欠願」及び「欠席届」の手続きを行ってください。ただし、公欠願が認められるのは、1 つの授業科目につき、原則 3 回までです。

欠席理由	届の種類	必要書類等	手続先
交通機関の事故・ストライキ等	公欠届	遅延証明書等と印鑑	教務課
単位互換協定大学試験の受験	公欠届	印鑑	教務課
警報発表に基づく欠席	公欠届	通学証明書・遅延証明書等と印鑑	教務課
お葬式・通夜〔父母（養父母を含む）・祖父母・実兄弟姉妹）〕	公欠届（忌引）	会葬御礼等の書類と印鑑〔父母（養父母を含む）3日以内・祖父母1日以内・実兄弟姉妹2日以内〕	教務課
災害等	公欠届（災害等）	官公庁による被災証明書と印鑑	教務課
国または都道府県を代表して、諸行事に参加	公欠届（特別）	印鑑	教務課
教育実習・実習に係る事前訪問	公欠届（実習関係）	印鑑	教 職 センター
学校において予防すべき感染症（学校保健安全法施行規則第18条に規定）	公欠届（感染症）	治癒証明書〔書式は本学ホームページからダウンロード〕	学生支援 センター
本学が認めるボランティア活動に参加	公欠願	印鑑	学生支援 センター
本学課外活動において公式試合及び行事等に参加	公欠願	事前にスポーツ振興課に届け出ておくこと（同好会は対象外）	スポーツ 振興課
就職試験等を受験するとき	公欠願	企業が発行した就職試験の受験を証明するもの	キャリア センター
病気・怪我等による1週間以上の長期欠席	欠席届	医師の診断書と印鑑	教務課

（6）オフィス・アワーについて

オフィス・アワーとは、教員が指定した曜日・時間帯に学生が自由に研究室を訪れ、授業内容・学修上の問題等について質問や相談ができる制度です。

各教員が指定した曜日・時間帯は、新学期当初に掲示します。授業担当の教員をはじめ、多くの教員に、授業や学生生活に関することなどを相談してください。

なお、相談に際してはマナーを心がけ、有効に活用してください。

4. 試 験

本学の試験には、定期試験、論文（レポート）試験、実技試験、追試験及び再試験があります。

なお、この他に担当者の判断で小テスト等の臨時試験を実施する場合もあります。

(1) 試験受験の心得について

受験に際しては、次の注意事項を厳守してください。

- 1) 学生証を机上に置き、公正な態度で受験すること。
- 2) 学生証・筆記用具・時計等の許可された物品以外は、すべてかばんの中に入れる。
- 3) 携帯電話は電源を切り、かばんの中に入れる。
- 4) 試験開始後 20 分が経過した場合には入室することはできない。また、試験開始後、30 分が経過するまでは退室することはできない。
- 5) 出席不良等で受験停止を命じられている者は、受験することができない。
- 6) 履修登録をしていない科目は、受験することができない。
- 7) 質問がある時は、手を挙げて試験監督者に知らせる。
- 8) 許可された物以外のものが机上または机の中にある時は、不正行為とみなす場合がある。また、物品の貸借は認めない。
- 9) 解答用紙を試験場外に持ち出した場合は、当該試験を無効とする。
- 10) 試験中に不正行為を行った者は、厳しい処分を科す。

試験当日、学生証を忘れた場合

2号館教務課付近の自動証明書発行機で「仮学生証」(100 円)を購入し、試験科目名、試験教室を記入して、机上に置くこと。

※「仮学生証」は発行当日のみ有効

※年間 10 枚のみ発行

※使用後は教務課に必ず返却すること

(2) 定期試験について

定期試験とは期間を定めて行う試験のことであり、試験期間は以下の通りです。

ア. 前期試験 (7月下旬から)

イ. 後期試験 (1月下旬から)

※ 試験期間は毎年度、学年暦によって決定されます。

定期試験の時間割表は、試験の1週間前までに1号館外・5号館外の掲示板に掲示します。また、本学 Web ページで発表するほか、教務課窓口で試験時間割用紙を配布します。

(注) 試験教室は通常授業の教室とは異なる場合があります。試験教室についても、試験の1週間前までに1号館外・5号館外の掲示板に掲示します。試験当日に慌てないように必ず確認しておいてください。

(3) 論文(レポート)試験・提出について

授業科目によっては、論文(レポート)試験や実技試験によって成績評価を行う場合があります。これらは定期試験の代わりとなるものですから、提出期限や

条件等は厳格に守ってください。なお、論文（レポート）試験や実技試験は、担当教員が直接授業中に指示する場合と、掲示板を通して指示場合があります。

また、試験とは別に、授業担当者からレポート課題が課せられることがあります。この場合、担当教員が授業中に直接指示します。

提出期限	指定された提出期日・時刻は厳守することが必要です。 締切後の提出は一切、受理できません。
提出先	指定された所へ提出してください。 (指定された提出先以外では受理できません) ①担当教員 ②授業時間中もしくは授業担当者の研究室 ③教務課窓口
受付時間	◎平日 午前 9:00～12:00 午後 1:00～4:00 ◎土曜 午前 9:00～12:00 郵送では一切、受理できません。 ※ この時間内でも特に担当教員の締切時刻がある場合は、その締切時刻以降は一切、受理できません。

(4) 追試験について

追試験とは、やむを得ない正当な理由によって定期試験当日に受験できなかった学生または論文（レポート）試験でレポートを提出することができなかった学生に対して定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

欠席理由	証明書	備 考
疾病等 (病気・怪我等)	医師の診断書または治療証明書 ※	家族の病気の付き添い等は認めません。 ※感染症の場合は、本学指定の治療証明書が必要です。
忌引	死亡に関する公的証明書 (写しでも可)	父母(養父母を含む) 3日以内・祖父母 1日以内・実兄弟姉妹 2日以内。 ※ <u>法事による欠席は認めません。</u>
就職試験	企業等が発行した就職試験受験を証明するもの	会社訪問、セミナー、研修等は認めません。
交通障害	遅延証明書・事故証明書	<u>20分以内の遅延は認めません。</u> バイク、マイカー使用に起因する交通事故及び交通渋滞による遅刻は認めません。
災害(地震・台風・火災・水害等)	官公庁による被災証明書	本人又は家族の居住地が被災した場合に限ります。
その他(本人の不注意によらない理由であること)	公的な証明書	事前に判明している場合は、教務課に問い合わせてください。 資格試験等は認められません。

追試験を受験するためには、前ページ表のように、当該試験を受験できなかったことが公的な証明書により明確に証明されなければなりません。

例えば、診断書に証明されている日時が試験日時と一致しない場合は、受付できませんので注意してください。公的な証明書が添付されていなければ、理由の如何を問わず、追試験を受験することができません。例えば、風邪などにより、自宅で療養していた場合においては、医師の診断書がないために受付できません。必ず医師の診断を受けておく必要があります。

忌引、就職試験、災害などによる欠席において遠隔地にいた場合は、往復のための所要日数も考慮しますので教務課に申し出てください。

(5) 再試験について

再試験とは、試験等で不可となった学生に対して、次の実施要領に従って実施する試験のことをいいます。

[人間教育学部 再試験等の実施要領]

1. 目的

再試験等とは、履修登録を行った科目の単位を修得することができなかった学生を対象とする試験である。

2. 受験範囲

再試験等を受験できる者は、試験等の結果、前期・後期で「不可」となった科目について、各学期末に受験することができる。また、特別の事由により、学部長が再試験等を許可する場合がある。

3. 再試験等を許可される科目

再試験等を許可される科目は、当該学期に履修し、担当教員が受験を認めた科目に限る。また、再試験前には、原則補習を行う。なお、理由なく補習を受けない場合は、当該科目は不可となる。

4. 受験手続き

- ① 受験希望者は期日内に「再試験願」を教務課に提出しなければならない。
- ② 再試験料は1科目1,000円とする。
- ③ 再試験時間割は掲示により発表される。

(6) 不正行為（カンニング）について

試験中の次の行為は、不正行為とみなします。

- 1) カンニングペーパーまたはこれに類似するものを試験中に所持または使用すること。
- 2) 他人に受験させ、または他人の代わりに受験すること。
- 3) 他人の答案をのぞき見することまたは故意に見せること。
- 4) 答案用紙を交換すること。
- 5) 持込みを許可されていない物品を参照すること。
- 6) 他の受験者と私語をすること。
- 7) 物品の貸借をすること。
- 8) 試験監督者の指示に従わないこと。
- 9) その他不正行為を疑われるような行為をすること。

試験中に不正行為をした者については、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とします。ただし、演習科目・実技科目についてはこの限りではありません。

5. 成 績

(1) 成績評価について

成績は100点を満点とし、60点以上を合格とします。履修した科目の成績評価は筆記試験・論文・レポート・実技テストその他、授業担当者の定める評価基準により行われます。

通年科目の最終成績は前期の成績と後期の成績とで評価されますので、前期の成績が思わしくなかったからといって落ち込まず、前向きに後期の授業に取り組んでください。

なお、通年科目には、前期の成績発表時に点数発表が行われる科目と行われない科目があります。成績通知は科目ごとに、次の評価によって発表します。

	点 数	評 価	成績通知書	成績証明書	単 位
5 段 階 評 価	90点～100点	秀	秀	秀	単位認定（修得）
	80点～89点	優	優	優	
	70点～79点	良	良	良	
	60点～69点	可	可	可	
	0点～59点	不可	不可	表示しない	単位不認定（不修得）
—	評価不能	欠課	欠課	表示しない	

※「欠課」とは、試験欠席、レポート未提出及び出席不良等の理由で単位不認定の場合をいう。

(2) 成績発表について

成績発表は、原則として、学期末（前期末又は後期末）に成績通知書を学生個人に配付することによって行います。成績発表の日程については、学年暦又は掲示板で確認してください。

また、成績に関する問い合わせは、成績発表後2週間以内に教務課に申し出て、「成績評価問い合わせ票」に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。

電話での問い合わせは受け付けません。

(3) 成績通知書と修得単位について

前期末の成績通知書には、その年度の通年科目は中間点で、前期で終了した科目は評価（秀・優・良・可・不可・欠課）で成績を示しています。

年度末の成績通知書には、その年度に履修登録した全科目の成績評価と、入学年度からの単位修得（合格）した科目の成績評価を示しています。

また、成績通知書には、履修区分別の単位修得表も掲載されています。指定された科目群の中から一定の単位を修得する必要がありますので、各自の成績表と比較して、卒業に必要な科目が何かを知るうえでの参考にしてください。

※ 注 意

①前期の成績通知書

- 前期開講科目……確定した成績評価
- 通年科目………前期終了時点での中間点（発表されない科目もあります）
- 集中開講科目……確定した成績評価（8月中に授業が終了した科目のみ）

②後期の成績通知書

- 前期開講科目……前期に確定した成績評価
- 通年科目………前期と後期の成績をもとに最終的に確定した成績評価
- 後期開講科目……確定した成績評価
- 集中開講科目……確定した成績評価

※ 成績評価は、秀・優・良・可・不可・欠課で示す。

6. 卒業の要件

(1) 卒業の要件について

大学を卒業する要件は、大学設置基準で定められています。本学では、卒業するために次の条件を満たす必要があります。

ア. 4年間以上の在学（休学期間を除く）

イ. 本学人間教育学部が定める卒業に必要な科目、並びに卒業に必要な単位数以上の修得

(2) 卒業所要単位一覧について

■ 人間教育学部 人間教育学科 1～4年次生対象 [平成 26～29 年度 (2014～2017) 入学生]

共通教育科目		専 門 科 目				関連科目	合計
必修・選択	小計	基礎科目 必修・選択	発展科目 必修・選択	演習実習科目 必修・選択	小計	選 択	
26	26	30	32	16	78		124
※ 上記に加え、共通教育科目、専門科目及び関連科目のうちから 26 単位の修得が必要 ※ 専門科目 [基礎科目：必修・選択] 30 単位のうち、6 単位を卒業要件として充足する							

7. G P A 制度について

(1) G P A 制度導入の趣旨

平成 23 (2011) 年度入学生から従来の成績評価に加えて、G P A (Grade Point Average) を導入しています。

G P A とは成績評価方法の 1 つで、履修科目の成績の平均を数値化したものです。ただ単位を修得すればいいということではなく、その質（成績の評価）も重要となるため、学生の皆さんが自主的・意欲的に学修し、自分の学修成果を正確に把握して、計画的な履修ができるよう制度を設けています。

(2) G P Aの算出式

履修登録科目のうちG P A対象科目について、各科目の成績評価（秀・優・良・可・不可または欠課）に応じて5段階（4、3、2、1、0）に分けて数値化した評価点（Grade Point）に単位数を掛けたものを総合計し、履修登録科目の総単位数で割ることにより算出します。

$$G P A = \frac{[(\text{対象科目の単位数}) \times (\text{その科目の評価点})] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

※ 小数点第3位を四捨五入

(3) G P Aの算定基準

	評価	得点等	評価点 (GradePoint)	
合格	秀	100 ～ 90 点	4	卒業要件内
	優	89 ～ 80 点	3	
	良	79 ～ 70 点	2	
	可	69 ～ 60 点	1	
不合格	不可	59 ～ 0 点	0	
	欠課	評価不能	0	

(4) G P Aの算出例

授業科目名	単位数	成績	評価点	単位数 × 評価点 (G P)
言葉の理解	2	秀	4	8
教育心理学A (初等)	2	優	3	6
現代教育論	2	良	2	4
情報機器の操作	2	不可	0	0
音楽とコミュニティ	2	欠課	0	0
スポーツ実技 I	1	可	1	1
計	11		10	19
	[単位数 × 評価点 (GP) の合計] ÷ [単位数の合計] = GPA 19 ÷ 11 = 1.73			

※ 小数点第3位を四捨五入

(5) 履修登録科目の変更

G P A対象科目を履修すると履修放棄等により成績評価が「不可」または「欠課」となった場合にも、0ポイントとして算出されて、G P A値が下がります。そこで、履修登録変更期間中に所定の理由書を提出し、履修登録科目の変更を申告することができます。ただし、変更の理由によっては、認められない場合もあります。

また、変更前に出席していなかった回については、欠席扱いとなりますので、よく考えたうえで申告をしてください。

履修登録科目の変更手続きは、下記期間中に所定の理由書に記入し、教務課に

申告してください。

- ◎ 前期または後期履修登録後の履修科目変更期間：第1週目の授業終了時まで
- ◎ 前期または後期履修登録後の履修科目取消期間：第6週目の授業終了時まで

(6) 履修変更ができない科目

- 必修科目及び登録必修科目
- 履修制限科目（定員が充足した科目）

(7) G P A 値の確認方法

G P A 値は成績・履修状況一覧表で確認できます。G P A 値には、学期G P A と累積G P A があり、学期G P A は当該学期のG P A 値を、累積G P A は通算したG P A 値を示します。

人間教育学部

履修計画をたてるには、この項に記載してある履修規程及び一般的注意事項をよく理解する必要があります。これらの事項を理解して履修登録を行い、卒業に必要な単位を修得していくように努めてください。

人間教育学部の講義を受けるにあたって

人間教育学部は小学校の先生を養成することを第一の目的としています。そのうえもっと学修を望む人は幼稚園や中学校（国語）高等学校（国語）の先生の免許も取得できます。

3年生と4年生で学校や幼稚園に4週間の教育実習に行きます。そのためには、1年生と2年生で、教育実習に行くための必要な科目を学習していなければいけません。高校生から大学生になった解放感から、大学の1年や2年はのんびりと好きなことをして3年生から頑張れば間に合うと考えている人は、卒業ができなくなります。なぜなら、人間教育学部は小学校免許を取得しないと卒業ができないからです。1年と2年の履修状況が、4年後の大学を卒業できるかどうかまでもを左右するといっても過言ではありません。

授業に出席さえしていれば、単位はもらえるという考えも間違っています。人間教育学部では、授業中での発言や質問等の参加度を大切にしたい授業をします。また授業中に一方的に教えてもらうだけでなく、自分で復習をすることも大切になります。

そこで、講義や演習を実効性のあるものとするため、以下の講義ルールを定めます。

（１）授業を受けるにあたり

- ①授業開始の時点では、学生は移動を終わり、着席しててください。
- ②座席は、少人数の講義を除いて指定制です。科目担当教員が学生一人ひとりの名前を早く覚え、講義を双方向のものとするためです。
- ③出席は、一人ひとりの学生の名前を呼び出席確認をします。学生は、挙手するなど明確に返事をしてください。
- ④携帯電話は、授業中はマナーモードにして、かばんの中に入れてください。
- ⑤飲食は、教室の中ではもちろん禁止です。
- ⑥机上にはかばんや、授業に必要なものを置きません。

（２）授業中と試験について

- ①第1回目の授業で科目ごとにSA（スチューデントアシスタント）を2名決めます。
SAの役割
 - ・授業の開始に「起立」「礼」「お願いします」、終わりに「起立」「礼」「ありがとうございました」の挨拶を相互に行う際の号令をかけます
 - ・教員の指示で授業中に使用する教具の準備や、資料の配布を行います
 - ・講義が終わった後の教室のかたづけや点検をします
 - ・学生による授業アンケートの実施を行います
- ②遅刻は正当な理由がある場合、15分以内は出席扱いとします。15分以上の遅

刻は欠席扱いとします。(正当な理由には証明が必要です)

③早退は、事前に早退届を教務課からもらって、担当教員に提出してください。

早退届がない場合は、緊急を要する場合以外は認めません。

④遅刻・早退は3回で欠席1回となります。

⑤前期・後期それぞれで欠席回数が5回を超えると定期試験は受験できません。

⑥授業と関係ない私語やメールなどをしている友人には、注意をしてください。

⑦各科目授業の4回目に、教科書を購入しているかチェックをします。

⑧前期・後期の試験に、指定された教科書を持参しない場合は、受験は認めません。

⑨各科目で成績不良の場合は、指名制の補習を行います。指名されたら必ず出席してください。理由なく補習を受けない場合は、その科目は不可となります。

1 . 人間教育学部 規程關係

人間教育学部 人間教育学科 履修規程

(総 則)

第1条 本学学則第13条第3項の規定に基づき、人間教育学部人間教育学科（以下「本学科」という。）は、小学校教諭を基本とした教育者等を育成するため、教育課程及び授業科目の履修については、この規程に定める。

(卒業資格)

第2条 本学科を卒業するためには、4年以上在学し、次条以下の規定に従い、124単位以上を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、これを共通教育科目、専門科目及び関連科目に区分する。

2 共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目及び、キャリア形成科目に区分する。

3 専門科目は、これを基礎科目、発展科目及び演習実習科目に区分する。

4 基礎科目は、これを教育学の基礎に関する理解及び人間教育学の基礎に関する理解に区分する。

5 発展科目は、これを現代教育・教育経営に関する理解、教育実践の理解及び教職キャリア形成に区分する。

6 演習実習科目は、これを人間教育学演習、教育実践演習及びゼミナールに区分する。

7 関連科目は、これを学校図書館司書教諭免許取得及び日本語教師資格に区分する。

(授業科目の履修)

第4条 本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

(1) 共通教育科目 26単位以上

(2) 専門科目 72単位以上

うち基礎科目 24単位以上

うち発展科目 32単位以上

うち演習実習科目 16単位以上

2 前項の各号に加えて、共通教育科目、専門科目及び関連科目のうちから26単位以上を修得しなければならない。

3 授業科目の配当年次等必要事項を表1から表8に定める。本学科の学生の履修は、表1に基づくものとする。なお、さらに他の教諭免許を取得する場合の履修は、表2から表8に基づくこととする。

(教育職員免許状の授与を得るための資格)

第5条 教育職員免許状の授与を得るためには、次の各号に従い、教育職員免許法及び同法施行規則を満たすため、本学科が定める所定の単位を修得しなければならない。

- (1) 幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語）又は高等学校教諭一種免許状（国語）（以下「免許状」という。）の授与を得るための「教科に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
- (2) 免許状の授与を得るための「教職に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
- (3) 免許状の授与を得るための「教科又は教職に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
- (4) 免許状の授与を得るための「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
- 2 教育実習を受講するには、次の各号いずれにも該当しなければならない。
 - (1) 卒業に必要な単位のうち、76 単位以上を修得していること。
 - (2) 教職センター運営委員会が定める授業科目を履修していること。
 - (3) 人間教育学部長及び教職センター長が適当と認めた学生であること。

（単 位）

第 6 条 各授業科目の単位数は、45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位とする。

- 2 各授業科目については、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、学則第 17 条の規定により単位数を計算する。

（配当年次）

第 7 条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

（授業科目の履修制限）

第 8 条 授業科目については、原則として、年間 45 単位を超えて履修することができない。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。

- 2 前項の履修単位数の制限は、1 年を 2 学期に分けて履修する場合において、1 学期で 25 単位を超えて履修することができないものとする。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。

（履修登録）

第 9 条 履修登録は、各学期始めに年 2 回行わなければならない。

（履修登録の制限）

第 10 条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

- 2 同時限に開講される授業科目は、1 科目しか登録することができない。

（再登録）

第 11 条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

- 2 単位を修得することができなかった授業科目は、第8条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

(履修登録の変更)

第12条 履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

- 2 学部長が教授会に諮り、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

(授業科目の開講)

第13条 授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

(授業の組分け)

第14条 履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

(単位の認定)

第15条 担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という。）により学修の成果を評価して単位を与える。

- 2 前項に定めるほか、教育上有益と認めるときは、学部長は、教授会に諮り当該授業科目の単位を与えることができる。

(単位認定を受ける資格)

第16条 次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

- (1) 授業料その他諸納入金が未納であるとき

- (2) 履修登録をしていないとき

(試験等の成績評価)

第17条 試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

- | | |
|-----------------|---------|
| (1) 100点から90点まで | 秀 |
| (2) 89点から80点まで | 優 |
| (3) 79点から70点まで | 良 |
| (4) 69点から60点まで | 可 |
| (5) 59点以下 | 不可（不合格） |

(受験上の注意)

第18条 学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

(再試験等)

第19条 試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

- 2 再試験等の実施については、別に定める。

- 3 再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

(追試験等)

第20条 病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

- 2 追試験等の実施については、別に定める。
- 3 追試験等の結果の成績評価は、一割減とする。
(改廃)

第 21 条 この規程の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

【表1】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		
			必 修	選 択	講 義	演 習	実験・ 実習
共通教育科目	英語Ⅰ	1・2・3・4前	1		○		
	英語Ⅱ	1・2・3・4後	1		○		
	英会話Ⅰ	1・2・3・4前	1			○	
	英会話Ⅱ	1・2・3・4後	1			○	
	中国語基礎Ⅰ	1・2・3・4前		1	○		
	中国語基礎Ⅱ	1・2・3・4後		1	○		
	中国語会話	1・2・3・4後		1		○	
	日本語Ⅰ	1・2・3・4前		1	○		
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後		1	○		
	日本語表現Ⅰ	1・2・3・4前		1		○	
	日本語表現Ⅱ	1・2・3・4後		1		○	
	文学	1・2・3・4前		2	○		
	哲学	1・2・3・4後		2	○		
	倫理学	1・2・3・4後		2	○		
	心理学	1・2・3・4後		2	○		
	行動科学の基礎	1・2・3・4前		2	○		
	文化人類学	1・2・3・4前		2	○		
	感性・イメージ表現	1・2・3・4後		2	○		
	音楽の世界	1・2・3・4前		2	○		
	社会学	1・2・3・4前		2	○		
	社会科学の基礎	1・2・3・4後		2	○		
	日本国憲法	1・2・3・4後	2		○		
	外国史	1・2・3・4前		2	○		
	地理学	1・2・3・4前		2	○		
	数学の世界	1・2・3・4前		2	○		
	物理と地学の基礎	1・2・3・4後		2	○		
	環境化学の基礎	1・2・3・4前		2	○		
	実験と科学	1・2・3・4前		2	○		
	健康スポーツ(理論)	1・2・3・4前	1		○		
	健康スポーツ(実技)	1・2・3・4後	1				○
	スポーツ実技Ⅰ	1・2・3・4前		1			○
	スポーツ実技Ⅱ	1・2・3・4後		1			○
	共生と日本社会	1・2・3・4前		2	○		
	人権論	1・2・3・4後		2	○		
	ボランティア活動	1・2・3・4後		2	○		
	生活と環境	1・2・3・4後		2	○		
	奈良学	1・2・3・4後		2	○		
	文化コミュニケーション	1・2・3・4前		2	○		
	文化芸術交流論	1・2・3・4前		2	○		
	文化芸術交流演習	1・2・3・4後		1		○	
	国際経済事情	1・2・3・4前		2	○		
	情報機器の操作	1・2・3・4前	2		○		
	情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4後		2	○		
	シミュレーションの世界	1・2・3・4後		2	○		
	データの世界	1・2・3・4後		2	○		
	C.Gの基礎と演習	1・2・3・4前		2	○		
	キャリアデザインⅠ	1前		1		○	
	キャリアデザインⅡ	1後		1		○	
	キャリアディベロップメントⅠ	2前		1		○	
	キャリアディベロップメントⅡ	2後		1		○	
	キャリアスキルアップⅠ	3前		1		○	
	キャリアスキルアップⅡ	3後		1		○	
	インターンシップ	3前・後		2			○
共通教育科目小計（53科目）		—	10	74	—		

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		
					必修	選択	講義	演習	実験・実習
専門科目	基礎科目	教育学の基礎に関する理解	教育心理学A(初等)	2前	2		○		
			教育心理学B(中等)	2前		2	○		
			発達心理学A(初等)	1前		2	○		
			発達心理学B(中等)	1前		2	○		
			教育行政学A(初等)	2前	2		○		
			教育行政学B(中等)	2後		2	○		
			教職入門A(初等)	1前	2		○		
			教職入門B(中等)	1前		2	○		
			教育原理A(初等)	1後	2		○		
			教育原理B(中等)	1後		2	○		
			学力と評価	2前		2	○		
			言葉の理解	2後	2		○		
			社会の理解	1後	2		○		
			数の理解	1後	2		○		
			自然の理解	2後	2		○		
			生活の理解	1後	2		○		
			音楽の理解	1前	2		○		
			美術の理解	1前	2		○		
			衣食住の理解	2前		2	○		
			運動・健康の理解	2前	2		○		
			書写演習(小)	2後		2		○	
			器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	1前		2			○
			器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2後		2			○
			器楽演習Ⅲ(パーカッション)	1前		2			○
			器楽演習Ⅳ(パーカッション)	1後		2			○
			行動の科学	2後	2		○		
			食の心理	2後	2		○		
			国語学入門	2前	2		○		
			国語学Ⅰ	2後	2		○		
			国文学入門	2前	2		○		
			国文学Ⅰ	2後	2		○		
			漢文学入門	2前	2		○		
			漢文学Ⅰ	2後	2		○		
			書写・書道入門	1後	2		○		
			書写・書道Ⅰ	2前	2		○		
			小計(35科目)				24	46	—
	基礎科目	人間教育学の基礎に関する理解	人間教育学Ⅰ(入門)	1前	2		○		
			人間教育学Ⅱ(応用)	2前	2		○		
			ことばとコミュニケーション	1後		2	○		
			教育と日本の伝統文化入門	1後	2		○		
			教育と日本の伝統文化演習	2前		1		○	
			異文化コミュニケーション	2前		2	○		
			英米文学	2前		2	○		
			英語とテレビに見る異文化	2後		2	○		
			コミュニティと音楽文化	2後		2	○		
			小計(9科目)	—	6	11	—		
	基礎科目小計(44科目)				30	57	—		
	発展科目	現代教育・教育経営に関する理解	現代教育論	2後		2	○		
			現代教育課題A(不登校・いじめ)	3前		2	○		
			現代教育課題B(特別支援)	3前		2	○		
			現代教育課題C(学校と安全)	3後		2	○		
			現代教育課題D(学校における異文化理解)	3後		2	○		
			幼児理解	2前		2	○		
			保育相談支援	2後		2	○		
			教育相談の理論と方法A(初等)	3後	2		○		
			教育相談の理論と方法B(中等)	3後		2	○		
			小計(9科目)		2	16	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		
			必修	選択	講義	演習	実験・実習
専門科目	発展科目 教育実践の理解	保育課程総論		2	○		
		子どもと健康		2	○		
		子どもと人間関係		2	○		
		子どもと環境		2	○		
		子どもと言葉		2	○		
		子どもと表現(体育)		2	○		
		子どもと表現(図工)		2	○		
		子どもと表現(音楽)		2	○		
		教育課程論A(初等)	2		○		
		教育課程論B(中等)		2	○		
		道徳教育の指導法A(初等)	2		○		
		道徳教育の指導法B(中等)		2	○		
		教育方法・技術論A(初等)	2		○		
		教育方法・技術論B(中等)		2	○		
		特別活動の指導法A(初等)	2		○		
		特別活動の指導法B(中等)		2	○		
		生徒指導・進路指導論A(初等)	2		○		
		生徒指導・進路指導論B(中等)		2	○		
		国語科指導法	2		○		
		社会科指導法	2		○		
		算数科指導法	2		○		
		理科指導法	2		○		
		生活科指導法	2		○		
		音楽科指導法	2		○		
		器楽・歌唱の指導法		2		○	
		図工科指導法	2		○		
		家庭科指導法	2		○		
		体育科指導法	2		○		
		体育実技の指導法		2		○	
		総合的な学習の時間		2	○		
		小学校外国語活動の指導法		2		○	
		国語学Ⅱ		2	○		
		国語学特論		2	○		
		語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)		2		○	
		国文学Ⅱ		2	○		
		国文学特論		2	○		
		語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)		2		○	
		漢文学Ⅱ		2	○		
		漢文学特論		2	○		
		語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)		2		○	
		書写・書道Ⅱ		2		○	
		国語科教育法Ⅰ		2	○		
		国語科教育法Ⅱ		2	○		
		国語科教育法Ⅲ		2	○		
		国語科教育法Ⅳ		2	○		
	小計(42科目)		—	28	62	—	
	リア教職 形成	教職表現力演習Ⅰ	1通年		1		○
		教職表現力演習Ⅱ	2通年		1		○
		小計(2科目)	—	0	2	—	
	発展科目小計(53科目)			30	80	—	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		
					必修	選択	講義	演習	実験・実習
専門科目	演習実習科目	人間教育学演習	人間教育実践力開発演習Ⅰ	1通年		1		○	
			人間教育実践力開発演習Ⅱ	2通年		1		○	
			人間教育実践力開発演習Ⅲ	3通年		1		○	
			人間教育実践力開発演習Ⅳ	4通年		1		○	
			小計（4科目）	—	0	4	—		
		教育実践実習	教育実習事前事後指導(幼)	4通年		1			○
			教育実習Ⅰ(幼)	4前		2			○
			教育実習Ⅱ(幼)	4前		2			○
			教育実習事前事後指導(小)	3通年	1				○
			教育実習Ⅰ(小)	3前	2				○
			教育実習Ⅱ(小)	3前	2				○
			教育実習事前事後指導(中・高)	4通年		1			○
			教育実習Ⅰ(中・高)	4前		2			○
			教育実習Ⅱ(中)	4前		2			○
			教職実践演習(幼・小)	4後	2				○
			教職実践演習(中・高)	4後		2			○
			小計（11科目）	—	7	12	—		
		ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	1通年	2			○	
			基礎ゼミナールⅡ	2通年	2			○	
			人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	3通年		4		○	
			人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4通年		4		○	
			卒業研究	4後		4		○	
		小計（5科目）			—	4	12	—	
	演習実習科目小計（20科目）				11	28	—		
	専門科目小計（小計117科目）				71	165	—		
関連科目	学校図書館司書 教諭免許取得	学校経営と学校図書館	4前		2	○			
		学校図書館メディアの構成	4前		2	○			
		学習指導と学校図書館	4前		2	○			
		読書と豊かな人間性	4後		2	○			
		情報メディアの活用	4後		2	○			
	日本語教師資格	言語学概論	4前		2	○			
		社会言語学	3後		2	○			
		日本事情	3後		2	○			
		日本語教育入門	3後		2	○			
		日本語教育指導法・教材研究	4前		2	○			
		日本語教育実習事前事後指導	4前		1			○	
		日本語教育実習(国内又は海外)	4前		2			○	
	関連科目小計（12科目）			—	0	23	—		

【表2】 幼一種免許を取得するために必要な教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備 考
		必修	選択	
国 語	言葉の理解 ※	2		
算 数	数の理解 ※	2		
生 活	生活の理解 ※	2		
音 楽	音楽の理解 ※	2		
図画工作	美術の理解 ※	2		
体 育	運動・健康の理解 ※	2		

※ 印は小一種免の取得に必要な科目と重複

【表3】 幼一種免許を取得するために必要な教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する 開設 授 業 科 目	単位数		備 考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門A（初等）※	2		
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理A（初等）※	2		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学A（初等）※	2		
			発達心理学A（初等）※		2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育行政学A（初等）※	2		
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18	保育課程総論	2		
	・保育内容の指導法		子どもと健康	2		
			子どもと人間関係	2		
			子どもと環境	2		
			子どもと言葉	2		
			子どもと表現（体育）	2		
			子どもと表現（図工）	2		
			子どもと表現（音楽）	2		
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法・技術論A（初等）※	2		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2	幼児理解	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		保育相談支援	2		

教育実習	5	教育実習事前事後指導（幼）	1	
		教育実習Ⅰ（幼）	2	
		教育実習Ⅱ（幼）	2	
教職実践演習	2	教職実践演習（幼・小）※	2	

※ 印は小一種免の取得に必要な科目と重複

【表4】 幼一種免許を取得するために必要な教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教科又は教職に関する科目	人間教育学Ⅰ（入門）※	2		
	人間教育学Ⅱ（応用）※	2		
	現代教育課題B（特別支援）※		2	
	現代教育課題C（学校と安全）※		2	

※ 印は小一種免の取得に必要な科目と重複

「教科又は教職に関する科目」の選択科目 又は最低修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて6単位以上を修得

【表5－1】 中一種免（国語）を取得するために必要な教科に関する科目

免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
国語学 （音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学入門	2		
	国語学Ⅰ	2		
	国語学Ⅱ	2		
	国語学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）	2		
	ことばとコミュニケーション	2		
国文学 （国文学史を含む。）	国文学入門	2		
	国文学Ⅰ	2		
	国文学Ⅱ	2		
	国文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅱ（国文学）	2		
	文学	2		
漢文学	漢文学入門	2		
	漢文学Ⅰ	2		
	漢文学Ⅱ	2		
	漢文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	2		

書道 (書写を中心とする。)	書写・書道入門	2	
	書写・書道Ⅰ		2
	書写・書道Ⅱ		2

【表5－2】 高一種免（国語）を取得するために必要な教科に関する科目

免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
国語学 (音声言語及び文章表現 に関するものを含む。)	国語学入門	2		
	国語学Ⅰ	2		
	国語学Ⅱ	2		
	国語学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）	2		
	ことばとコミュニケーション	2		
国文学 (国文学史を含む。)	国文学入門	2		
	国文学Ⅰ	2		
	国文学Ⅱ	2		
	国文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅱ（国文学）	2		
	文学	2		
漢文学	漢文学入門	2		
	漢文学Ⅰ	2		
	漢文学Ⅱ	2		
	漢文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	2		

【表5－3】 中一種免（国語）、高一種免（国語）を取得するために本学が必要と定めている科目

科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択必修	
共通教育科目	中国語基礎Ⅰ		2 ^ア	中 か ら 一 科 目 選 択 必 修。 アを付した科目の
	中国語基礎Ⅱ		2 ^ア	
	中国語会話		2 ^ア	
	奈良学	2		
関連科目	読書と豊かな人間性	2		
	言語学概論	2		
	社会言語学	2		

【表6】中一種免（国語）又は高一種免（国語）を取得するために必要な教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する 開設授業科目	単位数		備 考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門B（中等）	2		
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理B（中等）	2		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		教育心理学B（中等）	2		
			発達心理学B（中等）		2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育行政学B（中等）	2		
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中12・高6	教育課程論B（中等）	2		
	・各教科の指導法		国語科教育法Ⅰ	2		
			国語科教育法Ⅱ	2		
			国語科教育法Ⅲ		2	
			国語科教育法Ⅳ		2	
	・道徳の指導法		道徳教育の指導法B（中等）	2		中免のみ
	・特別活動の指導法		特別活動の指導法B（中等）	2		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導論B（中等）	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談の理論と方法B（中等）	2		
教育実習		中5・高3	教育実習事前事後指導（中・高）	1		
			教育実習Ⅰ（中・高）	2		
			教育実習Ⅱ（中）		2	中免のみ必修
教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	2		

【表 7 - 1】 中一種免（国語）を取得するために必要な教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教科又は教職に関する科目	人間教育学Ⅰ（入門）※	2		
	人間教育学Ⅱ（応用）※	2		
	現代教育課題B（特別支援）※		2	
	現代教育課題C（学校と安全）※		2	
	総合的な学習の時間 ※		2	

※ 印は小一種免の取得に必要な科目と重複

「教科又は教職に関する科目」の選択科目 又は最低修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて4単位以上修得

【表 7 - 2】 高一種免（国語）を取得するために必要な教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教科又は教職に関する科目	人間教育学Ⅰ（入門）※	2		
	人間教育学Ⅱ（応用）※	2		
	現代教育課題B（特別支援）※		2	
	現代教育課題C（学校と安全）※		2	
	総合的な学習の時間 ※		2	
	道德教育の指導法B（中等）	2		

※ 印は小一種免の取得に必要な科目と重複

「教科又は教職に関する科目」の選択科目 又は最低修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて10単位以上修得

【表 8】 幼一種免又は中一種免（国語）又は高一種免（国語）を取得するために必要な教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則第66条 の6に定める科目		左記に対応する本学の授業科目	単位数		備考
科目区分	単位数		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法 ※	2		
体育	2	健康スポーツ（理論）※	1		
		健康スポーツ（実技）※	1		
外国語コミュニケーション	2	英会話Ⅰ ※	1		
		英会話Ⅱ ※	1		
情報機器の操作	2	情報機器の操作 ※	2		

※ 印は小一種免の取得に必要な科目と重複

人間教育学部 人間教育学科 保育士養成課程履修細則

(総則)

第1条 本学学則第13条第5項の規定に基づき、人間教育学部人間教育学科の学生で、保育士資格の取得を希望する者は、児童福祉法（昭和22年法律第164号）及び児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）によるほか、この細則により履修しなければならない。

(履修)

第2条 保育士資格を取得するためには、別表に定める単位を修得し、当該学科を卒業しなければならない。

(対象)

第3条 前条の履修をするためには、人間教育学部長が定める選抜基準により、選抜されなければならない。

(課程名称・定員)

第4条 選抜された者は、人間教育学部人間教育学科保育士養成課程に所属する。この保育士養成課程の定員は20名とする。

(他機関・入学前取得単位の認定)

第5条 学長は、在学中に他の指定保育士養成施設等において履修した教科目又は入学前に指定保育士養成施設等で履修した教科目について取得した単位を、30単位を超えない範囲で当該教科目に相当するものとみなし、単位を認定することができる。

(卒業単位への算入)

第6条 この課程の授業科目の履修により修得した単位のうち、人間教育学部人間教育学科履修規程により同学科の授業科目と同一と人間教育学部教授会が認めた場合は、卒業単位に算入することができる。

(雑則)

第7条 この細則に定めるものの他は、人間教育学部人間教育学科履修規程に準じる。

(改廃)

第8条 この細則の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

(別表)

保育士資格に関する授業科目

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備 考
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単 位 数			
						必修	選択	計	
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本国憲法	講義	2		2	
				情報機器の操作	講義	2		2	
				キャリアデザインⅠ	演習		1	1	
				キャリアデザインⅡ	演習		1	1	
				キャリアディベロップメントⅠ	演習		1	1	
				キャリアディベロップメントⅡ	演習		1	1	
				キャリアスキルアップⅠ	演習		1	1	
				キャリアスキルアップⅡ	演習		1	1	
	外国語	演習	2以上	英会話Ⅰ	演習	1		1	
				英会話Ⅱ	演習	1		1	
	体 育	講義	1	健康スポーツ（理論）	講義	1		1	
		実技	1	健康スポーツ（実技）	実技	1		1	
合 計		10単位以上				8	6	14	
				14単位（≧10単位）					

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備 考
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されている 教科目	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	計	
保 育 の 本 質 ・ 目 的	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	
	教育原理	講義	2	教育原理A（初等）	講義	2		2	
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2	
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	1		1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義	2		2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	
保 育 の 対 象 の 理 解	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2		2	
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習	1		1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健Ⅰ	講義	4		4	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習	1		1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2		2	
保 育 の 内 容 ・ 方 法	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		2	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1		1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容Ⅰ（健康・人間関係）	演習	2		2	
				保育内容Ⅱ（環境）	演習	2		2	
				保育内容Ⅲ（言葉・表現）	演習	2		2	
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習	2		2	
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		2	
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	1		1	
	保育相談支援	演習	1	保育相談	演習	1		1	
術 現 の 保 技 保 育	保育の表現技術	演習	4	表現演習	演習	2		2	
				器楽演習Ⅰ（鍵盤楽器）	演習	2		2	
実 保 習 育	保育実習Ⅰ	実習	4	保育所実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	
	施設実習Ⅰ			施設実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	
演 習 総 合	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2		2	
合 計		51単位				52		52	
				52単位（≧51単位）					

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数			
						必修	選択	計	
保育の本質・目的	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上	教職入門A（初等）	講義	2		2	
				教育行政学A（初等）	講義	2		2	
				人間教育学Ⅰ（入門）	講義	2		2	
				人間教育学Ⅱ（応用）	講義	2		2	
保育の対象の理解				教育心理学A（初等）	講義	2		2	
				発達心理学A（初等）	講義	2		2	
				幼児理解	講義		2	2	
				保育相談支援	講義		2	2	
保育の内容・方法				子どもと健康	講義		2	2	
				子どもと人間関係	講義		2	2	
				子どもと環境	講義		2	2	
				子どもと言葉	講義		2	2	
				子どもと表現（体育）	講義		2	2	
				子どもと表現（図工）	講義		2	2	
				子どもと表現（音楽）	講義		2	2	
				教育方法・技術論A（初等）	講義	2		2	
表現技術				音楽科指導法	講義	2		2	
				器楽・歌唱の指導法	演習		2	2	
				図工科指導法	講義	2		2	
				体育実技の指導法	講義		2	2	
実保育	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	21	保育所実習Ⅱ 施設実習Ⅱ	実習	2		2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習		1	保育所実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	演習	1	1	
合 計		18単位以上					21	25	46
				46単位（≧18単位）					

	当該養成施設における教科の開設状況等					備 考
	左に対応して開設されている 教科目	授業 形態	単 位 数			
			必修	選択	計	
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の 科目として開設されている教科目	衣食住の理解	講義		2	2	
	行動の科学	講義		2	2	
	食の心理	講義		2	2	
	ことばとコミュニケーション	講義		2	2	
	英語とテレビに見る異文化	講義		2	2	
	生活科指導法	講義	2		2	
	家庭科指導法	講義	2		2	
	体育科指導法	講義	2		2	
	合 計			6	10	16

2 . 人間教育学部 教職課程

(1) 教職課程の概要

人間教育学部では幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭を目指す者に対して、教職課程が設けられています。

教員には次の世代の人材を育成するという重要な使命があり、そのため、十分な専門知識を持つと同時に、優れた人格や指導力が求められます。このことを踏まえ、免許取得には多くの科目の履修が求められ、履修すべき科目は、いずれも、上記の目的のために必要な科目であるとの認識を十分に持って、相当な覚悟で科目の履修に取り組んでください。

教育実習は、教員になるにふさわしい専門の学力と勉学に対する態度を身につけて、はじめて受講できるものと考えてください。

(2) 免許状の種類と免許教科

本学に在学している学生の取得できる免許状の種類と免許教科は次の通りです。

学 科	免許状の種類	免許教科
人間教育学科	幼稚園教諭一種免許状	—
人間教育学科	小学校教諭一種免許状	—
人間教育学科	中学校教諭一種免許状	国 語
人間教育学科	高等学校教諭一種免許状	国 語

(3) 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第5条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の6に定める「日本国憲法」(2単位)、「体育」(2単位)、「外国語コミュニケーション」(2単位)、「情報機器の操作」(2単位)が必要です。

所要資格 免許状 の種類	基礎資格	大学において取得することを必要とする専門教育科目の最低単位数			
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則第66条の6に定める科目
幼稚園教諭 一種免許状	学士の学位 を有すること	6	35	10	8
小学校教諭 一種免許状	学士の学位 を有すること	8	41	10	8
中学校教諭 一種免許状	学士の学位 を有すること	20	31	8	8
高等学校教諭 一種免許状	学士の学位 を有すること	20	23	16	8

(4) 教職課程登録

- ① 教職課程履修希望者は実習前年度までに「教職課程登録」の手続きをしなければなりません。
- ② 教職課程を辞退する場合は、教職センターへ辞退の届出をしなければなりません。

(5) 教職課程の科目

- ① 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

■ 人間教育学部 人間教育学科 平成 26 ～ 29 年度 (2014 ～ 2017) 入学生

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目				配当	開講時期	平成29年度担当者
			授業科目		単位数				
	単位数		単位数			必修	選択		
別表第一備考 四号確認欄	2	日本国憲法	2	○ 日本国憲法		2	1	後期	小林
	2	体育	2	○ 健康スポーツ(理論)		1	1	前期	岡部
				○ 健康スポーツ(実技)		1	1	後期	岡部・西田
	2	外国語コミュニケーション	2	○ 英会話Ⅰ		1	1	前期	熊田・オチャンテ(カ)
				○ 英会話Ⅱ		1	1	後期	熊田・オチャンテ(カ)
	2	情報機器の操作	2	○ 情報機器の操作		2	1	前期	杵崎

※ 授業科目の○印は必修科目

② 教科又は教職に関する科目

■ 人間教育学部 人間教育学科 平成 26 ～ 29 年度 (2014 ～ 2017) 入学生 幼稚園教諭一種

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目				配当	開講時期	平成29年度担当者
			授業科目		単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科又は教職に関する科目	10	教科又は教職に関する科目	10	○ 人間教育学 I (入門)	2		1	前期	梶田
				○ 人間教育学 II (応用)	2		2	前期	梶田
				現代教育課題B(特別支援)		2	3	集中	厨子
				現代教育課題C(学校と安全)		2	3	後期	松井

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

小学校教諭一種

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)										
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目				配当	開講時期	平成29年度担当者
				授業科目		単位数				
	単位数	単位数	必修			選択				
教科又は教職に関する科目	10	教科又は教職に関する科目	10	○ 人間教育学 I (入門)	2		1	前期	梶田	
				○ 人間教育学 II (応用)	2		2	前期	梶田	
				現代教育課題B(特別支援)		2	3	集中	厨子	
				現代教育課題C(学校と安全)		2	3	後期	松井	
				総合的な学習の時間		2	2	後期	森(一)	

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

中学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成29年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数	単位数			必修	選択			
教科又は教職に関する科目	10	教科又は教職に関する科目	8	○ 人間教育学 I (入門)	2		1	前期	梶田
				○ 人間教育学 II (応用)	2		2	前期	梶田
				現代教育課題B(特別支援)		2	3	集中	厨子
				現代教育課題C(学校と安全)		2	3	後期	松井
				総合的な学習の時間		2	2	後期	森(一)

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

高等学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成29年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数	単位数	必修		選択				
教科又は教職に関する科目	16	教科又は教職に関する科目	16	○ 人間教育学 I (入門)	2		1	前期	梶田 梶田 厨子 松井 森(一) 増井
				○ 人間教育学 II (応用)	2		2	前期	
				現代教育課題B(特別支援)		2	3	集中	
				現代教育課題C(学校と安全)		2	3	後期	
				総合的な学習の時間		2	2	後期	
				道徳教育の指導法B(中等)		2	3	前期	

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

③ 教科に関する科目

■ 人間教育学部 人間教育学科 平成 26 ～ 29 年度（2014 ～ 2017）入学生 幼稚園教諭一種

学部・学科等の教育課程(教科に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等	左記に対応する開設授業科目				配当	開講時期	平成29年度担当者	
		授業科目	単位数						
			必修	選択					
単位数		単位数							
教科に関する科目	12	国語 算数 生活 音楽 図画工作 体育	6	○ 言葉の理解	2		2	後期	伊崎
				○ 数の理解	2		1	後期	金山
				○ 生活の理解	2		1	後期	善野
				○ 音楽の理解	2		1	前期	山本
				○ 美術の理解	2		1	前期	松井
				○ 運動・健康の理解	2		2	前期	森(一)
12		6		12					

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、6単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

小学校教諭一種

学部・学科等の教育課程(教科に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目				配当	開講時期	平成29年度担当者
	単位数	単位数	授業科目		単位数 必修 選択				
教科に関する科目	16	国語(書写を含む)	8	○ 言葉の理解	2		2	後期	伊崎
				書写演習(小)		2	2	後期	小竹
				○ 社会の理解	2		1	後期	山田(均)
				○ 数の理解	2		1	後期	金山
				○ 自然の理解	2		2	前期	太田
				○ 生活の理解	2		1	後期	善野
				○ 音楽の理解	2		1	前期	山本
				器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)		2	1	前期	瀧明
				器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)		2	2	後期	瀧明
				○ 美術の理解	2		1	前期	松井
				衣食住の理解		2	2	前期	西江
				○ 運動・健康の理解	2		2	前期	森(一)
	16		8		16	8			

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、8単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

中学校教諭一種(国語)

学部・学科等の教育課程(教科に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成29年度担当者
				単位数					
	単位数	単位数	授業科目	必修	選択				
教科に関する科目	30	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む)	20	○ 国語学入門	2		2	前期	桑原
				○ 国語学 I	2		2	後期	桑原
				○ 国語学 II	2		3	前期	桑原
				国語学特論		2	4	前期	桑原
				○ 語学・文学総合演習 I (国語学)	2		3	後期	桑原
				○ こたばとコミュニケーション	2		1	後期	伊崎
				○ 国文学入門	2		2	前期	阿尾
				○ 国文学 I	2		2	後期	阿尾
				○ 国文学 II	2		3	前期	阿尾
				国文学特論		2	4	前期	阿尾
		○ 語学・文学総合演習 II (国文学)		2		3	後期	阿尾	
		○ 文学		2		1	前期	阿尾	
		○ 漢文学入門		2		2	前期	山田(明)	
		○ 漢文学 I		2		2	後期	山田(明)	
		○ 漢文学 II		2		3	前期	山田(明)	
		漢文学特論			2	4	前期	山田(明)	
		○ 語学・文学総合演習 III (漢文学)		2		3	後期	山田(明)	
		○ 書写・書道入門		2		1	後期	小竹	
		書写・書道 I			2	2	前期	小竹	
		書写・書道 II			2	3	前期	小竹	
	30		20		30	10			

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

高等学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程(教科に関する科目)										
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目				配当	開講時期	平成29年度担当者
	単位数	科目	各科目に含める必要事項	単位数	必修	選択				
教科に関する科目	28	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む)	20	○ 国語学入門	2		2	前期	桑原	
				○ 国語学 I	2		2	後期	桑原	
				○ 国語学 II	2		3	前期	桑原	
				国語学特論		2	4	前期	桑原	
				○ 語学・文学総合演習 I (国語学)	2		3	後期	桑原	
		国文学(国文学史を含む)		○ ことばとコミュニケーション	2		1	後期	伊崎	
				○ 国文学入門	2		2	前期	阿尾	
				○ 国文学 I	2		2	後期	阿尾	
				○ 国文学 II	2		3	前期	阿尾	
				国文学特論		2	4	前期	阿尾	
		漢文学		○ 語学・文学総合演習 II (国文学)	2		3	後期	阿尾	
				○ 文学	2		1	前期	阿尾	
				○ 漢文学入門	2		2	前期	山田(明)	
				○ 漢文学 I	2		2	後期	山田(明)	
				○ 漢文学 II	2		3	前期	山田(明)	
				漢文学特論		2	4	前期	山田(明)	
				○ 語学・文学総合演習 III (漢文学)	2		3	後期	山田(明)	
28		20		28	6					

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 選択科目3科目の中から1科目2単位以上選択必修

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

④ 教職に関する科目

■ 人間教育学部 人間教育学科 平成 26 ～ 29 年度（2014 ～ 2017）入学生 幼稚園教諭一種

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成29年度担当者
	単位数	科 目	各科目に含める必要事項	単位数	必修	選択			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職入門A(初等)	2		1	前期 松井
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6	○ 教育原理A(初等)	2		1	後期 松田
	18	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・保育内容の指導法 ・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)	18	○ 教育心理学A(初等)	2		2	前期 岡村
					発達心理学A(初等)		2	1	前期 高木
					○ 教育行政学A(初等)	2			後期 伊田
					○ 保育課程総論	2		2	前期 土谷
					○ 子どもと健康	2		2	前期 土谷
					○ 子どもと人間関係	2		2	後期 土谷
					○ 子どもと環境	2		2	前期 岡野
					○ 子どもと言葉	2		2	後期 伊崎
					○ 子どもと表現(体育)	2		2	前期 森(一)
					○ 子どもと表現(図工)	2		2	後期 松井
					○ 子どもと表現(音楽)	2		2	後期 山本
					○ 教育方法・技術論A(初等)	2		3	後期 金山
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	2	○ 幼児理解	2		2	前期 土谷
	5	教育実習		5	○ 保育相談支援	2		2	後期 岡村
					○ 教育実習事前事後指導(幼)	1		4	通年 岡野、善野、土谷、西江、松田
					○ 教育実習 I(幼)	2		4	前期 岡野、善野、土谷、西江、松田

					○ 教育実習 II (幼)	2		4	後期	岡野・善野・土谷・西江、松田
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習(幼・小)	2		4	後期	伊崎・岡野・金山・熊田・善野・土谷・西江・増井・松井・松田・森(一)・山田(均)
	37			35		37	2			

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教職に関する科目」の単位修得において、35単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

小学校教諭一種

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)										
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等				左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成29年度担当者
	単位数	科 目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数 必修	選択			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職入門A(初等)	2		1	前期	松井
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6	○ 教育原理A(初等)	2		1	後期	松田
					○ 教育心理学A(初等)	2		2	前期	岡村
					発達心理学A(初等)		2	1	前期	高木
					○ 教育行政学A(初等)	2		2	後期	伊田
	26	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・道徳の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)	22	○ 教育課程論A(初等)	2		3	前期	佃
					○ 国語科指導法	2		3	前期	伊崎
					○ 社会科指導法	2		2	前期	山田(均)
					○ 算数科指導法	2		2	前期	金山
					○ 理科指導法	2		3	前期	太田
					○ 生活科指導法	2		2	後期	善野
					○ 音楽科指導法	2		2	後期	山本
					○ 図工科指導法	2		2	後期	松井
					○ 家庭科指導法	2		3	後期	西江
					○ 体育科指導法	2		3	前期	森(一)
					○ 道徳教育の指導法A(初等)	2		3	後期	増井
					○ 特別活動の指導法A(初等)	2		2	前期	松田
					○ 教育方法・技術論A(初等)	2		3	後期	金山
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリング)に関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	4	○ 生徒指導・進路指導論A(初等)	2		2	集中	松岡
					○ 教育相談の理論と方法A(初等)	2		3	後期	岡村
	5	教育実習		5	○ 教育実習事前事後指導(小)	1		3	通年	伊崎・太田・金山・熊田・善野・西江・増井・松井・森(一)・山田(均)
					○ 教育実習 I (小)	2		3	前期	伊崎・太田・金山・熊田・善野・西江・増井・松井・森(一)・山田(均)
					○ 教育実習 II (小)	2		3	後期	伊崎・太田・金山・熊田・善野・西江・増井・松井・森(一)・山田(均)
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習(幼・小)	2		4	後期	伊崎・岡野・金山・熊田・善野・土谷・西江・増井・松井・松田・森(一)・山田(均)
	45			41		45	2			

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、41単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

中学校・高等学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等				左記に対応する開設授業科目		配当	開講時期	平成29年度担当者
	単位数	科 目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数 必修 選択			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職入門B(中等)	2	1	前期	瀧明
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6	○ 教育原理B(中等)	2	1	後期	松田
	中12・高10	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・道徳の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	中12・高6	○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
					○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
					○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
					○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
					○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
					○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
					○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
					○ 教育心理学B(中等)	2	2	前期	岡村
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法	4	○ 生徒指導・進路指導論B(中等)	2	2	集中	松岡
	中5・高3	教育実習		中5・高3	○ 教育実習 事前事後指導(中・高)	1	4	通年	西辻・松田
					○ 教育実習 I(中・高)	2	4	前期	西辻・松田
					○ 教育実習 II(中)	2	4	前期	西辻・松田
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習(中・高)	2	4	後期	西辻・松田
	中31・高27			中31・高23		中31・高27	中6・高10		

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「道徳教育の指導法B(中等)」及び「教育実習Ⅱ(中)」は、中学校教諭一種免許状(国語)の授与を得るための必修科目とする

※ 「教職に関する科目」の単位修得において、中免31単位、高免23単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

（6）教職課程科目の履修について

教職課程関連科目の登録は、原則として教育実習に参加し、所定の教育職員免許状を取得することを前提とします。

（7）教育実習

①「教育実習」の評価について

『教育職員免許法』に基づき、免許状取得条件科目に「教育実習」があります。幼稚園教諭及び小学校教諭、中学校教諭の免許状を取得するには「教育実習」5単位の修得が必要です。すなわち、「教育実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）と「教育実習事前事後指導」（1単位）を履修し、それらすべてを修得することが必要です。

高等学校教諭の免許状を取得するには「教育実習」3単位の修得が必要です。すなわち、「教育実習Ⅰ」（2単位）と「教育実習事前事後指導」（1単位）を履修し、それらすべてを修得することが必要です。

②「教育実習」の履修登録（小学校教諭免許）

教育実習受講有資格者は、3年次の履修登録期間中に「教育実習登録」の手続きをしなければなりません。

③「教育実習」の履修資格（小学校教諭免許）

- a. 前年度に教職課程登録等の所定の手続きを行っている者
- b. 前年度までに以下の科目の単位を修得している者
 - ◆ 卒業に必要な 124 単位のうち、76 単位以上の単位を修得していること。
 - ◆ 教科に関する科目のうち、教職センター運営委員会が定める授業科目を履修し、単位を修得していること。
 - ◆ 教職に関する科目のうち、教職センター運営委員会が定める授業科目を履修し、単位を修得していること。
 - ◆ 教育学部教育課程の授業科目のうち、教職センター運営委員会が定める授業科目を履修していること。
- c. 人間教育学部長及び教職センター長が適当と認めた者

④教育実習校の選定（小学校教諭免許）

「教育実習」は3年次に実施しますが、2年次から準備が必要です。2年次の5月頃に、「実習校選定のための説明会」を実施します。ここでの手続きを怠ると3年次で「教育実習」の履修登録ができませんので、説明会実施についての掲示に注意してください。

⑤ 教育実習費の納入

教育職員免許状の取得を希望する学生は教育実習費を定められた期日に納入してください。納入方法等については、指示により連絡します。

教育実習費 20,000円

（8）介護等体験について

小・中学校の普通免許状を授与するための要件として、基礎資格及び所定の単位修得に加え介護等体験を必要とします。「小学校及び中学校教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が、平成10年4月1日から施行され、平成10年度以降大学に入学する学生で小学校または中学校の普通免許状を取得しようとする学生は、文部科学大臣が定める社会福祉施設や特別支援学校等において、介護等体験を行い、施設や学校が発行する「介護等体験終了証明書」を免許状の授与申請の際に提出することが義務づけられています。

●介護等体験内容

障害者、高齢者等に対する介護、介助および交流などの体験7日間
(特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間)

●介護等体験の申込資格

介護等体験を行うためには、以下の条件をすべて満たしていることが必要です。

- ① 介護等体験実施前年度の修得単位数が30単位以上であること。
- ② 「介護等体験申込書」を期限内に提出し、所定の介護等体験費を納入済みであること。
- ③ 「介護等体験に係るガイダンス」にすべて出席すること。
- ④ 「介護等体験に係る誓約書」が提出済であること。

●注意事項

介護等体験の具体的な体験日程と派遣先は、教育委員会ならびに社会福祉協議会が調整して決定するため、希望は原則として認められません。

3. 人間教育学部 保育士養成課程

保育士養成課程

－平成 28 年度（2016）以降入学生対象－

（１）保育士課程の概要

本学の保育士養成課程（以下、保育士課程）は、人間教育学部人間教育学科に定員 20 名の課程として 2016 年度に設置されました。本学の保育士課程を修了し、都道府県知事より保育士証の交付を受け、かつ保育士登録事務処理センターで登録申請し、保育士として登録されることにより、保育士として活躍することができます。本学保育士課程では、保育士として働く意志を持ち、乳幼児を保育・教育する人としてふさわしい教養や人的資質を、一生を通じて養っていくことができる資質を育成することを目指していきます。

（２）保育士資格の取得要件

- ・学士の学位を有すること。
- ・保育士資格取得に必要な必修科目 52 単位、選択必修科目 18 単位以上、教養科目 10 単位以上を修得すること。

（３）保育士課程の受講要件

1 年次の後期期間中に保育士課程履修願書を提出してください。履修希望者が 20 名を超えた場合は選考の上、履修許可者を決定します。保育士課程に関する説明会を 1 年次後期中に開催します。説明会の開催日時等は学内掲示等を参照してください。保育士課程履修希望者が 20 名を超えない場合でも、面談を行います。

保育士課程履修願書の提出期間及び選考に関する日時等は、学内掲示等を参照してください。

保育士課程の履修を願い出て許可された学生に限り、保育士課程を履修することができます。

保育士課程科目は保育実習科目及び保育実践演習を除いて、支障のない限り、保育士課程学生以外の人間教育学部生でも履修することができます。

（４）保育士課程受講選考方法

選考が行われる場合の選考方法は以下の 2 点です。

- ① 1 年次の GPA。ただし 1 年次履修単位が 30 単位未満の学生は対象外とします。
- ② 面接

（５）保育実習について

①実習科目

a. 必修科目

- ・「保育所実習Ⅰ」は原則として 3 年次の 8～9 月に、保育所において 10 日間（80 時間）実施される観察実習です。

- ・「施設実習Ⅰ」は原則として3年次の8～9月に、保育所以外の児童福祉施設等において10日間（80時間）実施される観察実践実習です。
- ・「保育所実習Ⅱ」は原則として3年次の2～3月に、保育所において行われる実践実習です。

b. 選択科目

- ・「施設実習Ⅱ」は原則として4年次の10月に行われる、保育所以外の児童福祉施設等で行われる実践実習です。

②事前・事後指導科目

「保育所実習Ⅰ」と「施設実習Ⅰ」は「保育実習指導Ⅰ」、「保育所実習Ⅱ」は「保育実習指導Ⅱ」、「施設実習Ⅱ」は「保育実習指導Ⅲ」において、それぞれの実習科目の事前・事後指導を行います。実習指導科目とそれに対応する実習科目はセットで履修登録する必要があります。

③保育実習履修のための条件

保育実習を履修するためには、以下の条件をすべて満たしておく必要があります。

- ・当該実習科目が開講される前の期のGPAが2.5以上であること。
- ・当該実習科目が開講される前の期までに開講された保育士課程科目のうち、8割以上の単位が取得できていること。

4 . 人間教育学部 授業科目表

平成26～27年度(2014～2015)入学生 人間教育学部 人間教育学科 授業科目表

I. 共通教育科目

科目区分		授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者
			1年			2年			3年			4年				必修	選択	
			前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年				
共通教育科目	基礎 教 養 科 目	英語Ⅰ	●											必修 10 単位 以上	1	森(基)		
		英語Ⅱ		●											1	森(基)		
		英会話Ⅰ	●												1	熊田、オチャンテ(力)		
		英会話Ⅱ		●											1	熊田、オチャンテ(力)		
		中国語基礎Ⅰ	○			○			○			○			1	竹田		
		中国語基礎Ⅱ		○			○			○			○		1	竹田		
		中国語会話	○			○				○			○		1	竹田		
		日本語Ⅰ	○			○			○			○			1	鳥谷		
		日本語Ⅱ		○			○			○			○		1	鳥谷		
		日本語表現Ⅰ	○			○			○			○			1	鳥谷		
		日本語表現Ⅱ		○			○			○			○		1	鳥谷		
		文学	○			○			○			○			2	阿尾		
		哲学		○			○			○			○		2	表		
		倫理学		○			○			○			○		2	濱崎		
		心理学					○				○		○		2	野口		
		行動科学の基礎	○			○			○			○			2	吉岡		
		文化人類学	○			○			○			○			2	森田		
		感性・イメージ表現		○			○				○		○		2	吉岡、北村		
		音楽の世界	○			○			○				音楽		2	山本		
		社会学	○			○			○			○			2	井上		
		社会科学の基礎		○			○			○			○		2	西川		
		日本国憲法		●			●			●			●		2	小林		
		外国史	○			○			○			○			2	渡邊		
		地理学	○			○			○			○			2	日下		
	数学の世界	○			○			○			○		2	根岸				
	物理と地学の基礎		○			○			○			○	2	大原				
	環境化学の基礎	○			○			○			○		2	阪元				
	実験と科学	○			○			○			○		2	大原				
	健康スポーツ(理論)	●			●			●			●		1	岡部				
	健康スポーツ(実技)		●			●			●			●	1	岡部、西田				
	スポーツ実技Ⅰ	○			○			○			○		1	岡部、西田				
	スポーツ実技Ⅱ		○			○			○			○	1	岡部、西田				
共生・国際科目	共生と日本社会	○			○			○			○		以上	2	武谷			
	人権論		○			○			○			○		2	小林			
	ボランティア活動		○			○			○			○		2	谷口			
	生活と環境		○			○			○			○		2	阪元			
	奈良学				○			○			○			2	桑原			
	文化コミュニケーション	○			○			○			○			2	森田			
	文化芸術交流論	○			○			○						2	吉岡、北村			
	文化芸術交流演習		○			○			○					1	吉岡、北村			
	国際経済事情	○			○			○			○			2	河合(和)			
	情報機器の操作	●			●			●			●			2	杵崎			
情報教養科目	情報倫理とセキュリティ		○			○			○			○		2	濱崎			
	シミュレーションの世界		○			○			○			○		2	杵崎			
	データの世界		○			○			○			○		2	杵崎			
	CGの基礎と演習	○			○			○			○			2	大場			
	キャリアデザインⅠ	○												1	岡野			
キャリア形成科目	キャリアデザインⅡ		○										1	岡野				
	キャリアディベロップメントⅠ				○								1	岡野				
	キャリアディベロップメントⅡ					○							1	岡野				
	キャリアスキルアップⅠ							○					1	岡野				
	キャリアスキルアップⅡ								○				1	岡野				
	インターンシップ									○			2	岡野				

※「中国語基礎Ⅱ」は「中国語基礎Ⅰ」を修得した者のみが履修できる。

※「文化芸術交流演習」は「文化芸術交流論」を修得した者のみが履修できる。

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者
				1年			2年			3年			4年				必修	選択	
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年				
専 門 教 育 科 目	基 礎 教 育 学 の 基 礎 に 関 する 理 解	教育心理学A(初等)				●									2		岡村		
		教育心理学B(中等)				○										2		岡村	
		発達心理学A(初等)	○														2		高木
		発達心理学B(中等)	○														2		高木
		教育行政学A(初等)					●									2		伊田	
		教育行政学B(中等)					○									2		伊田	
		教職入門A(初等)	●													2		松井	
		教職入門B(中等)	○													2		瀧明	
		教育原理A(初等)		●												2		松田	
		教育原理B(中等)		○												2		松田	
		学力と評価				○										2		鎌田	
		言葉の理解					●									2		伊崎	
		社会の理解		●												2		山田(均)	
		数の理解		●												2		金山	
		自然の理解				●										2		太田	
		生活の理解		●												2		善野	
		音楽の理解	●													2		山本	
		美術の理解	●													2		松井	
		衣食住の理解				○										2		西江	
		運動・健康の理解				●										2		森(一)	
		書写演習(小)					○									2		小竹	
		器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	○													2		瀧明	
		器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)					○									2		瀧明	
		器楽演習Ⅲ(パーカッション)	○													2		大西	
		器楽演習Ⅳ(パーカッション)		○												2		大西	
	行動の科学					○									2		高木		
	食の心理					○									2		高木		
	国語学入門				○										2		桑原		
	国語学Ⅰ					○									2		桑原		
	国文学入門				○										2		阿尾		
	国文学Ⅰ					○									2		阿尾		
	漢文学入門				○										2		山田(明)		
	漢文学Ⅰ					○									2		山田(明)		
	書写・書道入門		○												2		小竹		
	書写・書道Ⅰ				○										2		小竹		
	人 間 教 育 学 の 基 礎 に 関 する 理 解	人間教育学Ⅰ(入門)	●												2		梶田		
		人間教育学Ⅱ(応用)				●									2		梶田		
		ことばとコミュニケーション		○											2		伊崎		
		教育と日本の伝統文化入門		●											2		梶田、渡邊		
		教育と日本の伝統文化演習				○									1		梶田、伊崎、小竹、渡邊		
		異文化コミュニケーション				○									2		熊田		
		英米文学				○									2		熊田		
		英語とテレビに見る異文化					○								2		熊田		
		コミュニティと音楽文化					○								2		山本		

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者
				1年			2年			3年			4年				必修	選択	
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年				
専 門 展 開 目	現代教育・教育経営に関する理解	現代教育論					○								2	鎌田			
		現代教育課題A(不登校・いじめ)							○						2	増井			
		現代教育課題B(特別支援)								○					2	厨子			
		現代教育課題C(学校と安全)									○				2	松井			
		現代教育課題D(学校における異文化理解)									○				2	オチャンテ(ロ)			
		幼児理解					○								2	土谷			
		保育相談支援						○							2	岡村			
		教育相談の理論と方法A(初等)										●			2	岡村			
		教育相談の理論と方法B(中等)										○			2	岡村			
		教育実践の理解	保育課程総論					○								2	土谷		
	子どもと健康						○								2	土谷			
	子どもと人間関係							○							2	土谷			
	子どもと環境							○							2	岡野			
	子どもと言葉							○							2	伊崎			
	子どもと表現(体育)							○							2	森(一)			
	子どもと表現(図工)								○						2	松井			
	子どもと表現(音楽)								○						2	山本			
	教育課程論A(初等)									●					2	佃			
	教育課程論B(中等)										○				2	佃			
	道徳教育の指導法A(初等)											●			2	増井			
	道徳教育の指導法B(中等)											○			2	増井			
	教育方法・技術論A(初等)												●		2	金山			
	教育方法・技術論B(中等)												○		2	金山			
	特別活動の指導法A(初等)							●							2	松田			
	特別活動の指導法B(中等)								○						2	松田			
	生徒指導・進路指導論A(初等)								●						2	松岡			
	生徒指導・進路指導論B(中等)									○					2	松岡			
	国語科指導法											●			2	伊崎			
	社会科指導法							●							2	山田(均)			
	算数科指導法							●							2	金山			
	理科指導法											●			2	太田			
	生活科指導法								●						2	善野			
	音楽科指導法								●						2	山本			
	器楽・歌唱の指導法											○			2	瀧明			
	図工科指導法								●						2	松井			
	家庭科指導法												●		2	西江			
	体育科指導法										●				2	森(一)			
	体育実技の指導法											○			2	森(一)			
	総合的な学習の時間								○						2	森(一)			
	小学校外国語活動の指導法								○						2	熊田			
	国語学Ⅱ										○				2	桑原			
	国語学特論												○		2	桑原			
	語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)											○			2	桑原			
	国文学Ⅱ										○				2	阿尾			
	国文学特論												○		2	阿尾			
	語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)											○			2	阿尾			
	漢文学Ⅱ										○				2	山田(明)			
	漢文学特論												○		2	山田(明)			
	語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)											○			2	山田(明)			
	書写・書道Ⅱ											○			2	小竹			
	国語科教育法Ⅰ								○						2	鎌田			
	国語科教育法Ⅱ											○			2	鎌田			
	国語科教育法Ⅲ											○			2	西辻			
	国語科教育法Ⅳ												○		2	西辻			
	教職キャリア形成		教職表現力演習Ⅰ				○									1	オチャンテ(ロ)、桑原、高木、山田(明)、山本		
		教職表現力演習Ⅱ						○							1	オチャンテ(ロ)、桑原、高木、山田(明)、山本			

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者			
				1年			2年			3年			4年				必修	選択				
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年							
専 門 科 目	演習実習科目	人間教育 学 演習	人間教育実践力開発演習Ⅰ			○										1	阿尾、伊崎、善野、西江、山田(均)					
			人間教育実践力開発演習Ⅱ							○						1	阿尾、伊崎、善野、西江、山田(均)					
			人間教育実践力開発演習Ⅲ										○			1	阿尾、伊崎、善野、西江、山田(均)					
			人間教育実践力開発演習Ⅳ												○	1	阿尾、伊崎、善野、西江、松井、山田(均)					
		教育実践 実習	教育実習事前事後指導(幼)													○	1	岡野、善野、土谷、西江、松田				
			教育実習Ⅰ(幼)												○		2	岡野、善野、土谷、西江、松田				
			教育実習Ⅱ(幼)											○		2	岡野、善野、土谷、西江、松田					
			教育実習事前事後指導(小)													●	1	伊崎、太田、金山、熊田、善野、西江、増井、松井、森(一)、山田(均)				
			教育実習Ⅰ(小)													●	2	伊崎、太田、金山、熊田、善野、西江、増井、松井、森(一)、山田(均)				
			教育実習Ⅱ(小)													●	2	伊崎、太田、金山、熊田、善野、西江、増井、松井、森(一)、山田(均)				
			教育実習事前事後指導(中・高)														○	1	西辻、松田			
			教育実習Ⅰ(中・高)													○		2	西辻、松田			
			教育実習Ⅱ(中)													○		2	西辻、松田			
			教職実践演習(幼・小)														●	2	伊崎、岡野、金山、熊田、善野、土谷、西江、増井、松井、松田、森(一)、山田(均)			
			教職実践演習(中・高)														○	2	西辻、松田			
	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ														●	2	太田、岡村、高木、土谷、森(一)				
		基礎ゼミナールⅡ															●	2	阿尾、善野、西江、根岸、松井			
		人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)														○		4	伊崎、岡野、岡村、金山、熊田、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森(一)、渡邊			
		人間教育学ゼミナールⅡ(応用)															○	4	伊崎、岡野、岡村、金山、熊田、熊田、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森(一)、山本、渡邊			
		卒業研究															○	4	伊崎、岡野、岡村、金山、熊田、熊田、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森(一)、山本、渡邊			
	関連科目	学校図書館司書 教諭免許取得	学校経営と学校図書館														○		2	鎌田		
学校図書館メディアの構成																	○		2	伊崎、米川		
学習指導と学校図書館																	○		2	伊崎		
読書と豊かな人間性																		○		2	伊崎	
情報メディアの活用																		○		2	米川	
日本語教師資格		言語学概論																○		2	西尾	
		社会言語学																	○		2	鳥谷
		日本事情																	○		2	渡邊
		日本語教育入門																	○		2	鳥谷
		日本語教育指導法・教材研究																		○	2	鳥谷

註1 ●＝必修科目 ○＝選択科目

註2 【卒業要件単位 1 2 4 単位】

- ① 共通教育科目 2 6 単位以上 (必修 1 0 単位を含む)
- ② 専門科目のうち、基礎科目 2 4 単位以上 (必修科目 3 0 単位を含む)
- ③ 専門科目のうち、発展科目 3 2 単位以上 (必修科目 3 0 単位を含む)
- ④ 専門科目のうち、演習実習科目 1 6 単位以上 (必修科目 1 1 単位を含む)
- ⑤ 共通教育科目、専門教育科目、関連科目から 2 6 単位以上

※ただし、年間履修単位の上限は 4 5 単位とする。

平成28～29年度(2016～2017)入学生 人間教育学部 人間教育学科 授業科目表

I. 共通教育科目

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者
				1年			2年			3年			4年				必修	選択	
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年				
共通教育科目	基礎教養科目	英語Ⅰ	●												必修 10単位 以上 選択 16単位	1	森(基)		
		英語Ⅱ		●												1	森(基)		
		英会話Ⅰ	●													1	熊田、オチャンテ(カ)		
		英会話Ⅱ		●												1	熊田、オチャンテ(カ)		
		中国語基礎Ⅰ	○			○			○			○				1	竹田		
		中国語基礎Ⅱ		○			○			○			○			1	竹田		
		中国語会話	○			○			○			○				1	竹田		
		日本語Ⅰ	○			○			○			○				1	鳥谷		
		日本語Ⅱ		○			○			○			○			1	鳥谷		
		日本語表現Ⅰ	○			○			○			○				1	鳥谷		
		日本語表現Ⅱ		○			○			○			○			1	鳥谷		
		文学	○			○			○			○				2	阿尾		
		哲学		○			○			○			○			2	表		
		倫理学		○			○			○			○			2	濱崎		
		心理学		○			○			○			○			2	野口		
		行動科学の基礎	○			○			○			○				2	吉岡		
		文化人類学	○			○			○			○				2	森田		
		感性・イメージ表現		○			○			○			○			2	吉岡、北村		
		音楽の世界	○			○			○			○				2	山本		
		社会学	○			○			○			○				2	井上		
		社会科学の基礎		○			○			○			○			2	西川		
		日本国憲法		●			●			●			●			2	小林		
		外国史	○			○			○			○				2	渡邊		
		地理学	○			○			○			○				2	日下		
		数学の世界	○			○			○			○				2	根岸		
		物理と地学の基礎		○			○			○			○			2	大原		
		環境化学の基礎	○			○			○			○				2	阪元		
		実験と科学	○			○			○			○				2	大原		
	健康スポーツ(理論)	●			●			●			●			1	岡部				
	健康スポーツ(実技)		●			●			●			●		1	岡部、西田				
	スポーツ実技Ⅰ	○			○			○			○			1	岡部、西田				
	スポーツ実技Ⅱ		○			○			○			○		1	岡部、西田				
	共生教養科目	共生と日本社会	○			○			○			○			2	武谷			
		人権論		○			○			○			○		2	小林			
		ボランティア活動		○			○			○			○		2	谷口			
		生活と環境		○			○			○			○		2	阪元			
		奈良学		○			○			○			○		2	桑原			
	奈良・国際科目	文化コミュニケーション	○			○			○			○			2	森田			
		文化芸術交流論	○			○			○			○			2	吉岡、北村			
		文化芸術交流演習		○			○			○			○		1	吉岡、北村			
		国際経済事情	○			○			○			○			2	河合(和)			
		情報機器の操作	●			●			●			●			2	杵崎			
	情報教養科目	情報倫理とセキュリティ		○			○			○			○		2	濱崎			
		シミュレーションの世界		○			○			○			○		2	杵崎			
		データの世界		○			○			○			○		2	杵崎			
		CGの基礎と演習	○			○			○			○			2	大場			
キャリアデザインⅠ		○												1	岡野				
キャリア形成科目	キャリアデザインⅡ		○											1	岡野				
	キャリアディベロップメントⅠ				○									1	岡野				
	キャリアディベロップメントⅡ					○								1	岡野				
	キャリアスキルアップⅠ							○						1	岡野				
	キャリアスキルアップⅡ								○					1	岡野				
	インターンシップ								○					2	岡野				

※「中国語基礎Ⅱ」は「中国語基礎Ⅰ」を修得した者のみが履修できる。

※「文化芸術交流演習」は「文化芸術交流論」を修得した者のみが履修できる。

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者
				1年			2年			3年			4年				必修	選択	
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年				
専 門 基 礎 科 目	教育 学 の 基 礎 に 関 す る 理 解	教育心理学A(初等)				●										2	岡村		
		教育心理学B(中等)				○											2	岡村	
		発達心理学A(初等)	○														2	高木	
		発達心理学B(中等)	○														2	高木	
		保育の心理学Ⅰ							○								2		
		保育の心理学Ⅱ								○							1		
		教育行政学A(初等)					●										2	伊田	
		教育行政学B(中等)					○										2	伊田	
		教職入門A(初等)	●														2	松井	
		教職入門B(中等)	○														2	龍明	
		保育者論					○										2	明神	
		教育原理A(初等)		●													2	松田	
		教育原理B(中等)		○													2	松田	
		保育原理		○													2	森本	
		学力と評価					○										2	鎌田	
		言葉の理解						●									2	伊崎	
		社会の理解		●													2	山田(均)	
		数の理解		●													2	金山	
		自然の理解				●											2	太田	
		生活の理解		●													2	善野	
		音楽の理解		●													2	山本	
		美術の理解		●													2	松井	
		衣食住の理解					○										2	西江	
		運動・健康の理解					●										2	森(一)	
		書写演習(小)					○										2	小竹	
		器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)		○													2	龍明	
		器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)					○										2	龍明	
		器楽演習Ⅲ(パーカッション)		○													2	大西	
		器楽演習Ⅳ(パーカッション)			○												2	大西	
		行動の科学					○										2	高木	
		食の心理					○										2	高木	
		国語学入門					○										2	桑原	
	国語学Ⅰ					○										2	桑原		
	国文学入門					○										2	阿尾		
	国文学Ⅰ					○										2	阿尾		
	漢文学入門					○										2	山田(明)		
	漢文学Ⅰ					○										2	山田(明)		
	書写・書道入門			○												2	小竹		
	書写・書道Ⅰ				○											2	小竹		
	人間 教育 学 の 基 礎 に 関 す る 理 解	人間教育学Ⅰ(入門)	●													2	梶田		
		人間教育学Ⅱ(応用)				●										2	梶田		
		ことばとコミュニケーション			○											2	伊崎		
		教育と日本の伝統文化入門		●												2	梶田、渡邊		
		教育と日本の伝統文化演習					○									1	梶田、伊崎、小竹、渡邊		
		異文化コミュニケーション					○									2	熊田		
		英米文学					○									2	熊田		
		英語とテレビに見る異文化					○									2	熊田		
		コミュニティと音楽文化					○									2	山本		

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者
				1年			2年			3年			4年				必修	選択	
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年				
専 門 展 示 科 目	現代教育・ 教育経営に 関する理解	現代教育論					○								2	鎌田			
		現代教育課題A(不登校・いじめ)								○						2	増井		
		現代教育課題B(特別支援)									○					2	舄子		
		現代教育課題C(学校と安全)									○					2	松井		
		現代教育課題D(学校における異文化理解)										○				2	オチャンテ (ロ)		
		幼児理解					○									2	土谷		
		保育相談支援						○								2	岡村		
		教育相談の理論と方法A(初等)									●					2	岡村		
		教育相談の理論と方法B(中等)										○				2	岡村		
	教育 実践 の 理 解	保育課程総論					○									2	土谷		
		保育内容総論						○								1	土谷		
		子どもと健康					○									2	土谷		
		子どもと人間関係						○								2	土谷		
		子どもと環境					○									2	岡野		
		子どもと言葉						○								2	伊崎		
		子どもと表現(体育)						○								2	森(一)		
		子どもと表現(図工)							○							2	松井		
		子どもと表現(音楽)							○							2	山本		
		表現演習									○					2			
		保育内容Ⅰ (健康・人間関係)									○					2			
		保育内容Ⅱ (環境)										○				2			
		保育内容Ⅲ (言葉・表現)											○			2			
		教育課程論A(初等)									●					2	佃		
		教育課程論B(中等)										○				2	佃		
		道徳教育の指導法A(初等)										●				2	増井		
		道徳教育の指導法B(中等)										○				2	増井		
		教育方法・技術論A(初等)										●				2	金山		
		教育方法・技術論B(中等)											○			2	金山		
		特別活動の指導法A(初等)						●								2	松田		
		特別活動の指導法B(中等)							○							2	松田		
		生徒指導・進路指導論A(初等)							●							2	松岡		
		生徒指導・進路指導論B(中等)							○							2	松岡		
		国語科指導法										●				2	伊崎		
		社会科指導法							●							2	山田(均)		
		算数科指導法							●							2	金山		
		理科指導法										●				2	太田		
		生活科指導法										●				2	善野		
		音楽科指導法										●				2	山本		
		器楽・歌唱の指導法											○			2	瀧明		
		図工科指導法										●				2	松井		
		家庭科指導法											●			2	西江		
		体育科指導法										●				2	森(一)		
		体育実技の指導法											○			2	森(一)		
		総合的な学習の時間								○						2	森(一)		
		小学校外国語活動の指導法								○						2	熊田		
		国語学Ⅱ										○				2	桑原		
		国語学特論													○	2	桑原		
		語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)											○			2	桑原		
		国文学Ⅱ										○				2	阿尾		
		国文学特論													○	2	阿尾		
		語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)											○			2	阿尾		
		漢文学Ⅱ											○			2	山田(明)		
		漢文学特論													○	2	山田(明)		
		語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)												○		2	山田(明)		
		書写・書道Ⅱ											○			2	小竹		
		国語科教育法Ⅰ							○							2	鎌田		
		国語科教育法Ⅱ										○				2	鎌田		
		国語科教育法Ⅲ											○			2	西辻		
		国語科教育法Ⅳ												○		2	西辻		
	教職キャリア形成	教職表現力演習Ⅰ					○								1	オチャンテ(ロ)、桑原、高木、山田(明)、山本			
		教職表現力演習Ⅱ							○						1	オチャンテ(ロ)、桑原、高木、山田(明)、山本			

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分 卒業要件	単位数		平成29年度担当者			
				1年			2年			3年			4年				必修	選択				
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年							
専 門 科 目	演 習 実 習 科 目	人 間 教 育 学	人間教育実践力開発演習Ⅰ			○										1	阿尾、伊崎、善野、西江、山田(均)					
			人間教育実践力開発演習Ⅱ					○									1	阿尾、伊崎、善野、西江、山田(均)				
			人間教育実践力開発演習Ⅲ									○						1	阿尾、伊崎、善野、西江、山田(均)			
			人間教育実践力開発演習Ⅳ												○			1	阿尾、伊崎、善野、西江、松井、山田(均)			
		教育実践 実習	保育所実習Ⅰ							○								2				
			施設実習Ⅰ								○							2				
			保育実習指導Ⅰ								○							2				
			保育所実習Ⅱ									○						2				
			施設実習Ⅱ									○						2				
			保育実習指導Ⅱ									○						1				
			保育実習指導Ⅲ											○				1				
			教育実習事前事後指導(幼)												○			1	岡野、善野、土谷、西江、松田			
			教育実習Ⅰ(幼)												○			2	岡野、善野、土谷、西江、松田			
			教育実習Ⅱ(幼)												○			2	岡野、善野、土谷、西江、松田			
			教育実習事前事後指導(小)													●		1	伊崎、太田、金山、熊田、善野、西江、増井、松井、森(一)、山田(均)			
			教育実習Ⅰ(小)													●		2	伊崎、太田、金山、熊田、善野、西江、増井、松井、森(一)、山田(均)			
			教育実習Ⅱ(小)													●		2	伊崎、太田、金山、熊田、善野、西江、増井、松井、森(一)、山田(均)			
			教育実習事前事後指導(中・高)														○		1	西辻、松田		
			教育実習Ⅰ(中・高)														○		2	西辻、松田		
			教育実習Ⅱ(中)														○		2	西辻、松田		
		保育実践演習														○		2				
		ゼミナール	教職実践演習(幼・小)															●	2	伊崎、岡野、金山、熊田、善野、土谷、西江、増井、松井、松田、森(一)、山田(均)		
			教職実践演習(中・高)															○	2	西辻、松田		
			基礎ゼミナールⅠ				●												2	太田、岡村、高木、土谷、森(一)		
	基礎ゼミナールⅡ									●								2	阿尾、善野、西江、根岸、松井			
		人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)													○			4	伊崎、岡野、岡村、金山、熊田、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森(一)、渡邊			
		人間教育学ゼミナールⅡ(応用)															○	4	伊崎、岡野、岡村、金山、鎌田、熊田、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森(一)、山本、渡邊			
		卒業研究															○	4	伊崎、岡野、岡村、金山、鎌田、熊田、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森(一)、山本、渡邊			
																	○					
関 連 科 目	学 校 図 書 館 司 書	学校経営と学校図書館												○			2	鎌田				
		学校図書館メディアの構成													○			2	伊崎、米川			
		学習指導と学校図書館														○			2	伊崎		
		読書と豊かな人間性															○			2	伊崎	
		情報メディアの活用																○			2	米川
	日 本 語 教 師 資 格	言語学概論														○			2	西尾		
		社会言語学													○				2	鳥谷		
		日本語事情														○			2	渡邊		
		日本語教育入門														○			2	鳥谷		
		日本語教育指導法・教材研究															○			2	鳥谷	
		日本語教育実習事前事後指導																○			1	鳥谷
		日本語教育実習(国内又は海外)																	○			2
	幼 児 保 育	児童家庭福祉												○					2			
		社会福祉								○									2	久保		
		相談援助												○					1			
		社会的養護													○				2			
		子どもの保健Ⅰ														○			4			
		子どもの保健Ⅱ															○			1		
		子どもの食と栄養								○									2	河合(洋)		
		家庭支援論																	2			
		乳児保育			○														2	土谷		
		障害児保育												○					2			
		社会的養護内容															○			1		
		保育相談																○			1	

註1 ●＝必修科目 ○＝選択科目

註2 【卒業要件単位 124単位】

- ① 共通教育科目26単位以上（必修10単位を含む）
- ② 専門科目のうち、基礎科目24単位以上（必修科目30単位を含む）
- ③ 専門科目のうち、発展科目32単位以上（必修科目30単位を含む）
- ④ 専門科目のうち、演習実習科目16単位以上（必修科目11単位を含む）
- ⑤ 共通教育科目、専門教育科目、関連科目から26単位以上

※ただし、年間履修単位の上限は45単位とする。

保育士資格

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					配当	開講時期	平成29年度担当者
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数					
						必修	選択	計			
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本国憲法	講義	2		2	1	後期	小林
				情報機器の操作	講義	2		2	1	前期	杵崎
				キャリアデザインⅠ	演習		1	1	1	前期	岡野
				キャリアデザインⅡ	演習		1	1	1	後期	岡野
				キャリアディベロップメントⅠ	演習		1	1	2	前期	岡野
				キャリアディベロップメントⅡ	演習		1	1	2	後期	岡野
				キャリアスキルアップⅠ	演習		1	1	3		
				キャリアスキルアップⅡ	演習		1	1	3		
	外国語	演習	2以上	英会話Ⅰ	演習	1		1	1	前期	熊田、オチャンテ(カ)
				英会話Ⅱ	演習	1		1	1	後期	熊田、オチャンテ(カ)
体 育	講義	1	健康スポーツ（理論）	講義	1		1	1	前期	岡部	
	実技	1	健康スポーツ（実技）	実技	1		1	1	後期	岡部・西田	
合 計		10単位以上			8	6	14				
			14単位（≧10単位）								

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等				配当	開講時期	平成29年度担当者
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数				
						必修	選択	計		
保育に関する本質・目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	2	1	後期	森本
	教育原理	講義	2	教育原理A（初等）	講義	2	2	1	後期	松田
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2	2	3		
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	2	2	前期	久保
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	1	1	3		
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義	2	2	3		
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	2	2	後期	明神
保育に関する対象の科目理解	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2	2	3		
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習	1	1	3		
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健Ⅰ	講義	4	4	3		
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習	1	1	4		
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2	2	2	前期	河合(洋)
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2	2	3		
法・保育に関する科目・目方	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2	2	2	前期	土谷
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1	1	2	後期	土谷
	保育内容演習	演習	5	保育内容Ⅰ（健康・人間関係）	演習	2	2	3		
				保育内容Ⅱ（環境）	演習	2	2	3		
				保育内容Ⅲ（言葉・表現）	演習	2	2	3		
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習	2	2	1	後期	土谷
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2	2	3		
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	1	1	4		
	保育相談支援	演習	1	保育相談	演習	1	1	3		
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	表現演習	演習	2	2	3		
				器楽演習Ⅰ（鍵盤楽器）	演習	2	2	1	前期	瀧明
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育所実習Ⅰ	実習	2/4	2/4	3		
	施設実習Ⅰ	実習	2	施設実習Ⅰ	実習	2/4	2/4	3		
保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習	2	2	3			
	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2	2	4		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2	2	4		
合 計		51単位				52	52			
				52単位（≧51単位）						

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					配当	開講 時期	平成29年度担当者
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業 形態	単 位 数					
						必修	選択	計			
的保 育の 本質 ・目	各指定保育士養成施設において 設定		15 単 位 以 上	教職入門A（初等）	講義	2		2	1	前期	松井
				教育行政学A（初等）	講義	2		2	2	後期	伊田
				人間教育学Ⅰ（入門）	講義	2		2	1	前期	梶田
				人間教育学Ⅱ（応用）	講義	2		2	2	前期	梶田
解保 育の 対 象 の 理				教育心理学A（初等）	講義	2		2	2	前期	岡村
				発達心理学A（初等）	講義	2		2	1	前期	高木
				幼児理解	講義		2	2	2	前期	土谷
				保育相談支援	講義		2	2	2	後期	岡村
法保 育の 内 容 ・方				子どもと健康	講義		2	2	2	前期	土谷
				子どもと人間関係	講義		2	2	2	後期	土谷
				子どもと環境	講義		2	2	2	前期	岡野
				子どもと言葉	講義		2	2	2	後期	伊崎
				子どもと表現（体育）	講義		2	2	2	前期	森（一）
				子どもと表現（図工）	講義		2	2	2	後期	松井
				子どもと表現（音楽）	講義		2	2	2	後期	山本
				教育方法・技術論A（初等）	講義	2		2	3		
保 育の 表 現 技 術				音楽科指導法	講義	2		2	2	後期	山本
				器楽・歌唱の指導法	演習		2	2	3		
				図工科指導法	講義	2		2	2	後期	松井
				体育実技の指導法	講義		2	2	3		
保 育 実 習	保育実習Ⅱ又は 保育実習Ⅲ	実習	〔 2 〕 〔 1 〕	保育所実習Ⅱ 施設実習Ⅱ	実習 実習	2 2		2 2	3 3		
	保育実習指導Ⅱ 又は保育実習指導Ⅲ	演習		演習 演習	1 1		1 1	3 4			
合 計		18単位以上				21	25	46			
						46単位（≧18単位）					

保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目	当該養成施設における教科の開設状況等					配当	開講時期	平成29年度担当者
	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数					
			必修	選択	計			
	衣食住の理解	講義		2	2	2	前期	西江
	行動の科学	講義		2	2	2	後期	高木
	食の心理	講義		2	2	2	後期	高木
	ことばとコミュニケーション	講義		2	2	1	後期	伊崎
	英語とテレビに見る異文化	講義		2	2	2	後期	熊田
	生活科指導法	講義	2		2	2	後期	善野
	家庭科指導法	講義	2		2	3		
	体育科指導法	講義	2		2	3		
合 計				6	10	16		

